

4. 各種調查結果

調査項目		調査の目的	把握項目
市民アンケート調査		<ul style="list-style-type: none"> ・柳川市が抱える地域公共交通の問題点・課題の把握に向けた基礎データの収集 ・連携計画の検証に向けた基礎データの収集 ・今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎データの収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の日常的な外出・移動の状況 ・公共交通の利用状況、公共交通に対する不満や改善要望 ・これまでの公共交通に関する取り組みに対する評価 ・公共交通のあり方に対する考え ・分析に必要な属性
コミュニティバス 利用状況調査	OD調査	<ul style="list-style-type: none"> ・市内を運行するコミュニティバスの利用状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用時間帯（利用便） ・利用曜日 ・乗車・降車バス停 ・性別・属性（学生・一般・高齢者の別）
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の外出特性やコミュニティバスに対する不満、改善要望の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地 ・外出時間・帰宅時間 ・外出曜日 ・現状サービスに対する不満・改善要望
福祉バスに関するアンケート調査 （福祉バス利用状況分析）		<ul style="list-style-type: none"> ・三橋総合保健福祉センターへの無料送迎バス（三橋福祉バス）及び旧大和町内を運行している大和総合保健福祉センターへの無料送迎バス（大和福祉バス）の利用状況やニーズ等を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用頻度 ・福祉バスの利用有無及び利用頻度 ・福祉バスを利用しない理由／今後の利用意向／利用する理由 ・福祉バス利用者の外出特性 ・福祉バスを利用するための条件、現サービスへの不満・改善要望
西鉄柳川駅利用者聞き取り調査		<ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者の移動特性を把握 ・西鉄バス利用者の利用特性の把握 ・堀川バス利用者の利用特性の把握 ・観光客の市内の移動特性の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用時間帯 ・駅まで（から）の移動手段／乗車・降車バス停（駅） ・目的地（外出先） ・利用頻度 ・公共交通に対するニーズ ・年齢・性別・住所
交通事業者ヒアリング調査	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・市民及び観光客等来街者の市内における移動特性の把握 ・市民及び観光客等来街者の公共交通に対する不満・改善要望等の把握 ・市民及び観光客等来街者の公共交通全体の利用促進に向けた連携施策や効率的な公共交通ネットワークの形成に向けた役割分担等に関する意見の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの利用特性 ・公共交通に対するタクシー利用者の不満や要望 ・公共交通全体の利用促進に向けたアイデア ・公共交通の効率化に向けた意見 ・事業者が抱える問題点・課題
	スクールバス		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行状況 ・スクールバスの収支状況および学校のスクールバスに対する考え方 ・高校生の公共交通に求めるニーズ ・事業者が抱える問題点・課題
	川下り送迎バス		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎バスの運行状況 ・観光客の2次交通の状況 ・公共交通に対する送迎バス利用者の不満や要望 ・相乗効果を生む連携施策に向けたアイデア ・事業者が抱える問題点・課題

4-1 市民アンケート調査結果

(1) 調査の概要

○本調査は、柳川市の地域公共交通が抱える問題点・課題の把握や、柳川市地域公共交通総合連携計画の検証、今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎データを収集することを目的に実施したものです。

表 調査の概要

調査目的	<ul style="list-style-type: none">・柳川市の地域公共交通が抱える問題点・課題の把握・柳川市地域公共交通総合連携計画の検証・今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎データの収集
調査対象	15歳以上85歳以下の柳川市民2,000人 (住民基本台帳を基に地域別・年齢別に無作為に抽出) ※配布票数は、地域別の移動特性や、意向分析を行うことを念頭に、各地域100票程度を回収することを目標に、過年度アンケート調査における回収率30.3%を考慮して逆算した330票を各地域に配布
調査方法	郵送配布・回収 (回収率向上を念頭に、差出人および返信先は柳川市とし、配布用封筒・回収用封筒には市名を印刷)
調査期間	配布：平成28年8月26日(金) 回答期間：平成28年8月27日(土)～9月9日(金)
把握項目	<ul style="list-style-type: none">・市民の日常的な外出・移動の状況・公共交通の利用状況、公共交通に対する不満や改善要望・これまでの公共交通に関する取り組みに対する評価・公共交通のあり方に対する考え・分析に必要な属性
回収状況	回収票数：886票 回収率：44.3%

(2)回答者の属性

○回答者は男性が約 4 割、女性が約 6 割とやや女性が多くなっています。

○回答者の年齢は、65 歳以上の高齢者が約 4 割を占めます。

○職業では、無職が最も多く、4 割弱を占めます。その他、会社員が 25%、パート・アルバイトが 13%、自営業が 10%を占めます。

○回答者の約 3/4 が運転免許を持ち、自由に使える自家用車を持っています。一方で、運転免許を持っていない人が 2 割弱います。

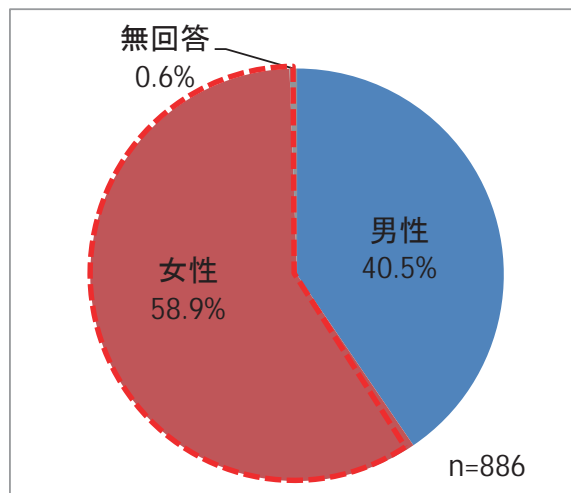


図 性別

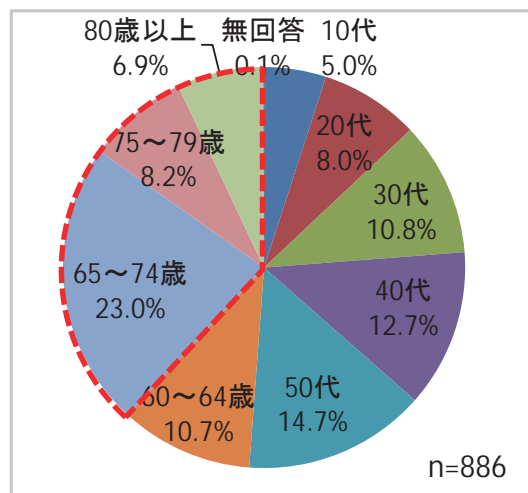


図 年齢

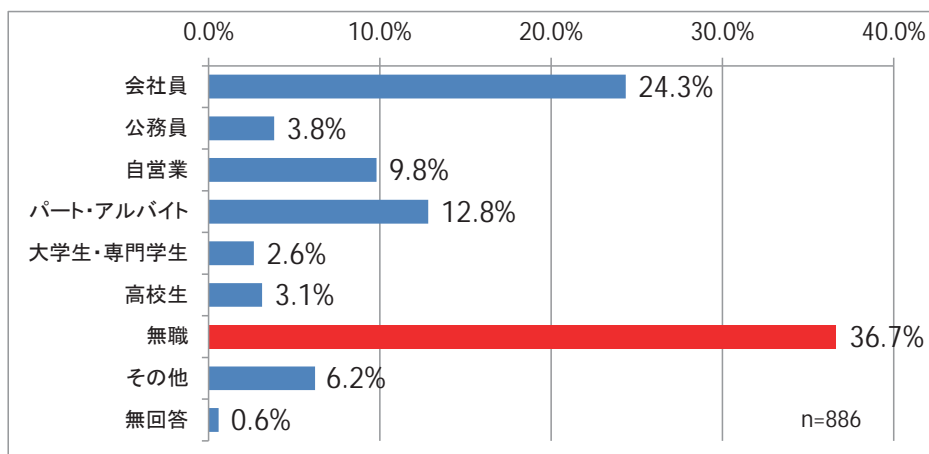


図 職業

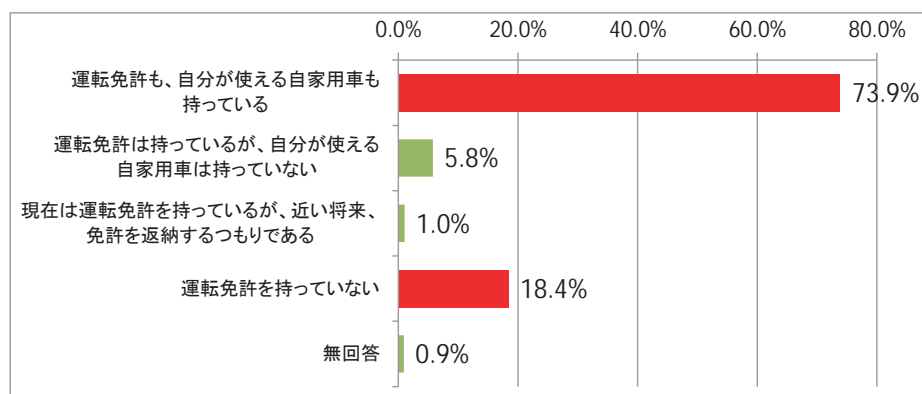


図 運転免許と自家用車保有状況

(3)外出目的別の外出行動

1) 日常生活の中で最も多い外出目的

○日常生活の中で最も多い外出目的について、「通勤・通学」が最も多く、4割強が回答しています。また、「買物」を約1/3が回答しています。

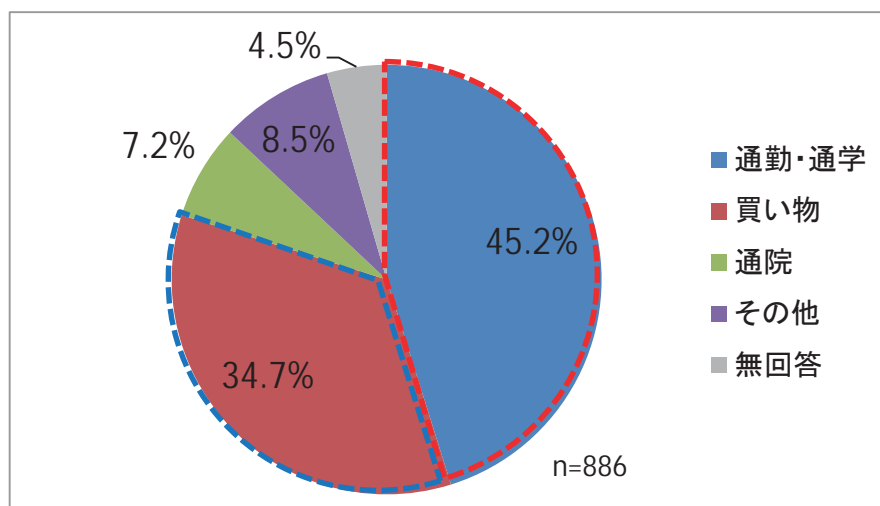


図 日常生活の中で最も多い外出目的

2) 通勤・通学における移動特性

○回答者の約半数が市外に通勤・通学先を持っており、市内よりもやや多くなっています。
 ○主な移動手段は、自家用車（自分で運転）が最も多く、約6割が回答しています。家族等の送迎も含めると、約7割がマイカー利用です。
 ○一方、公共交通の利用は、西鉄天神大牟田線を約1割が回答していますが、その他の交通機関は少なくなっています。

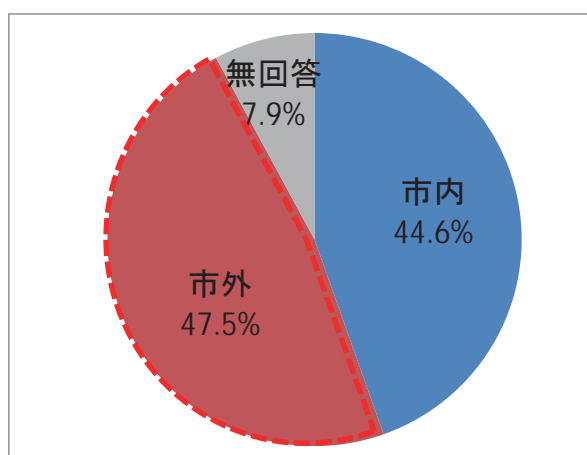


図 通勤・通学先：市内外の別

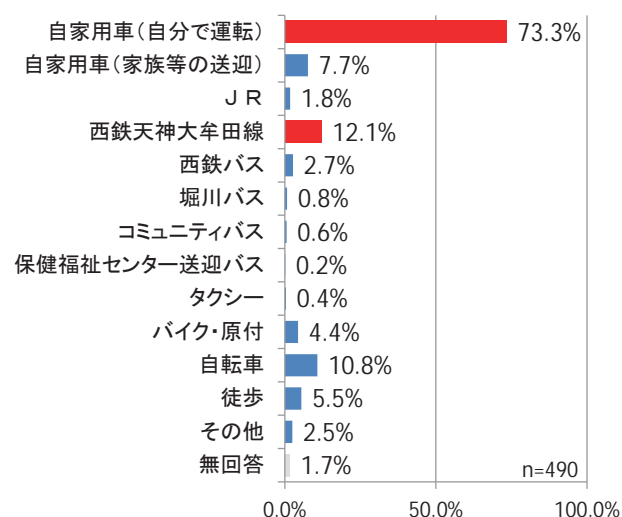


図 最もよく利用する交通手段（通勤・通学）

3) 買物における移動特性

○回答者の8割以上が市内で買物をしています。

○主な移動手段は、自家用車（自分で運転）が最も多く、約75%が回答しています。家族等の送迎も含めると、9割弱がマイカー利用です。

○一方、公共交通の利用は少なく、いずれも数%しか回答されていません。

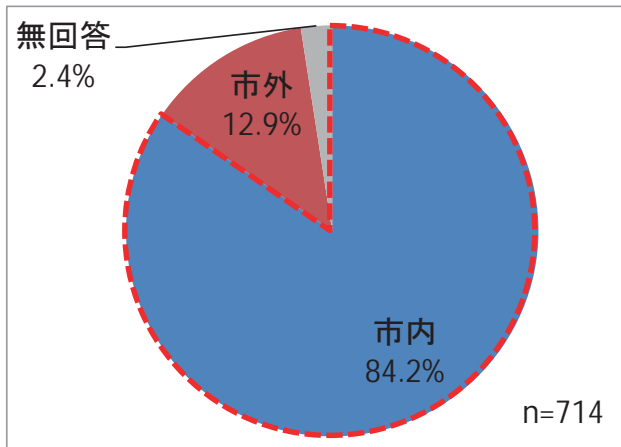


図 買物先：市内外の別

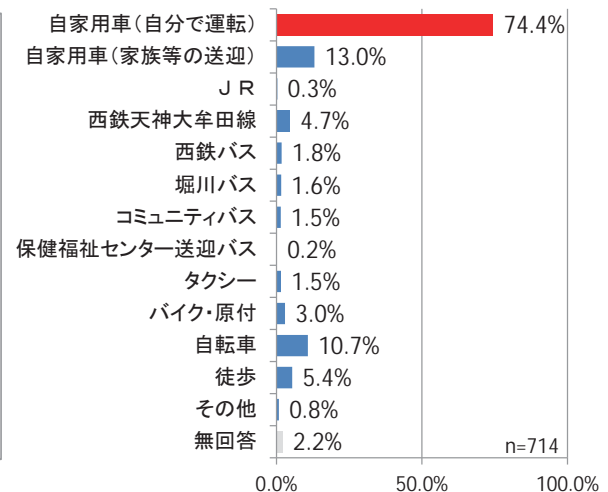


図 最もよく利用する交通手段（買物）

4) 通院における移動特性

○回答者の約7割が市内の病院を利用しています。

○主な移動手段は、自家用車（自分で運転）が最も多く、約6割が回答しています。家族等の送迎も含めると、約3/4がマイカー利用です。

○一方、公共交通の利用は少なく、いずれも数%しか回答されていません。

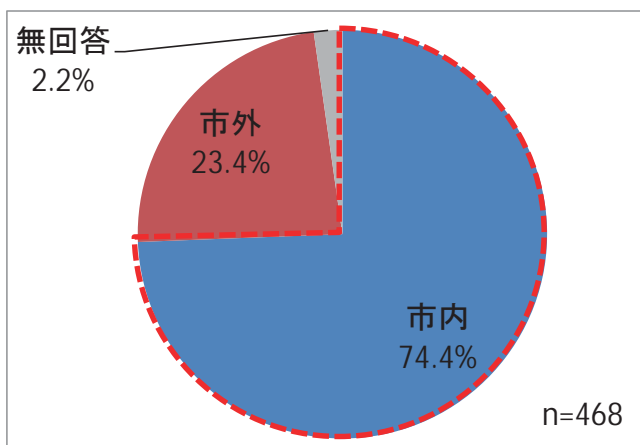


図 通院先：市内外の別

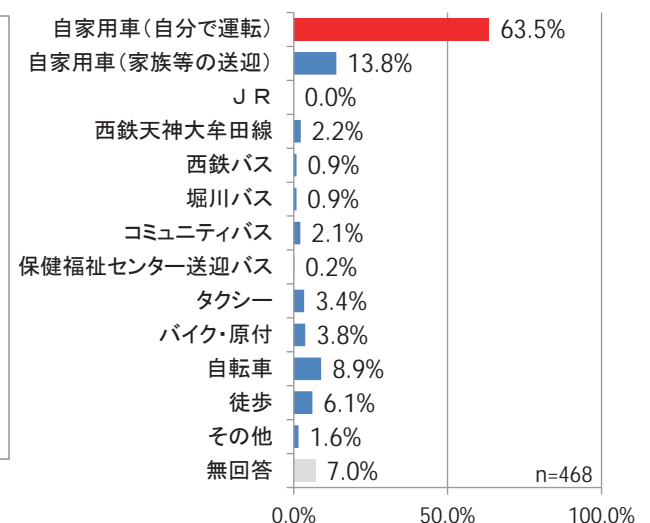


図 最もよく利用する交通手段（通院）

(4)公共交通の利用状況

1) 公共交通の利用の有無

○直近 1 ヶ月の公共交通の利用について、約 3 割が「利用した」と回答、約 7 割は「利用していない」と回答しています。

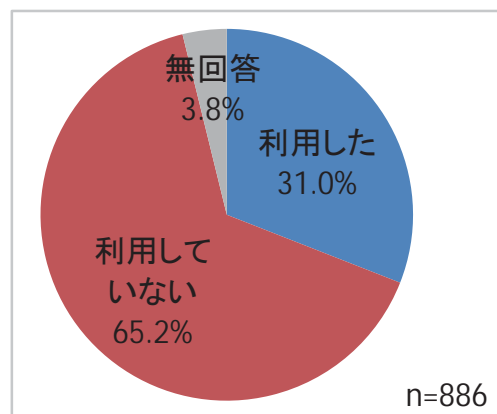


図 公共交通の利用有無

2) 公共交通利用者の外出特性

○公共交通利用者（直近 1 ヶ月以内に鉄道、路線バス、コミュニティバスを利用した人）のうち、主な外出先について約 9 割が「市外」を回答しています。

○主な外出目的については、約 3 割が「買物」、約 2 割が「通勤・通学」を回答しています。

○利用している交通機関は、「西鉄天神大牟田線」が最も多く、約 8 割となっています。

○駅・バス停までの移動手段については、約 4 割が「自家用車（自分で運転）」、約 2 割が「自家用車（家族等の送迎）」を回答しており、約 6 割がマイカーでアクセスしています。また、約 3 割は「自転車・徒歩」を回答。公共交通機関でのアクセスは少なくなっています。

表 公共交通利用者の外出目的地

n=275	
	割合
市内	3.7%
市外	90.6%
無回答	5.8%

表 公共交通利用者の外出目的

n=275	
	割合
通勤・通学	21.6%
買物	32.6%
通院	7.5%
その他	31.1%
無回答	7.2%

表 公共交通利用者の最もよく利用する交通手段

n=275	
	割合
西鉄天神大牟田線	81.8%
JR	5.0%
西鉄バス	3.5%
堀川バス	2.3%
コミュニティバス	3.3%
無回答	4.0%

表 公共交通利用者の駅・バス停までの交通手段

n=275	
	割合
自家用車(自分で運転)	35.5%
自家用車(家族等の送迎)	19.3%
西鉄バス	3.6%
堀川バス	0.7%
コミュニティバス	1.4%
タクシー	1.9%
バイク・原付	1.5%
自転車・徒歩	29.6%
無回答	6.5%

(5)公共交通に対する改善要望

1) 鉄道に対する不満点・改善点

○公共交通利用者の鉄道に対する不満点・改善点については、「駅周辺の駐車場や駐輪場を充実させる」が最も多く、約3割が指摘しています。また、「運賃の割引制度などを充実させる」も約3割が回答しています。

【複数回答有】

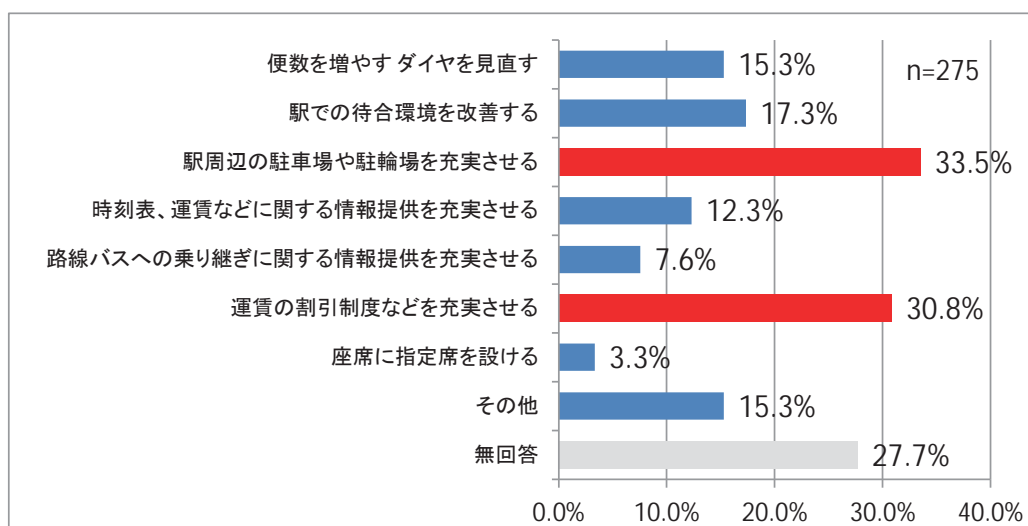


図 公共交通利用者の鉄道に対する不満点・改善点

2) 路線バス・コミュニティバスに対する不満点・改善点

○公共交通利用者の路線バス・コミュニティバスに対する不満点・改善点については、「バス停での待合環境を改善する」や「西鉄大牟田線や路線バスへの乗り継ぎに関する情報提供を充実させる」、「鉄道と乗継しやすいようにダイヤを調整する」への指摘が多く、それぞれ1割強が指摘しています。

【複数回答有】

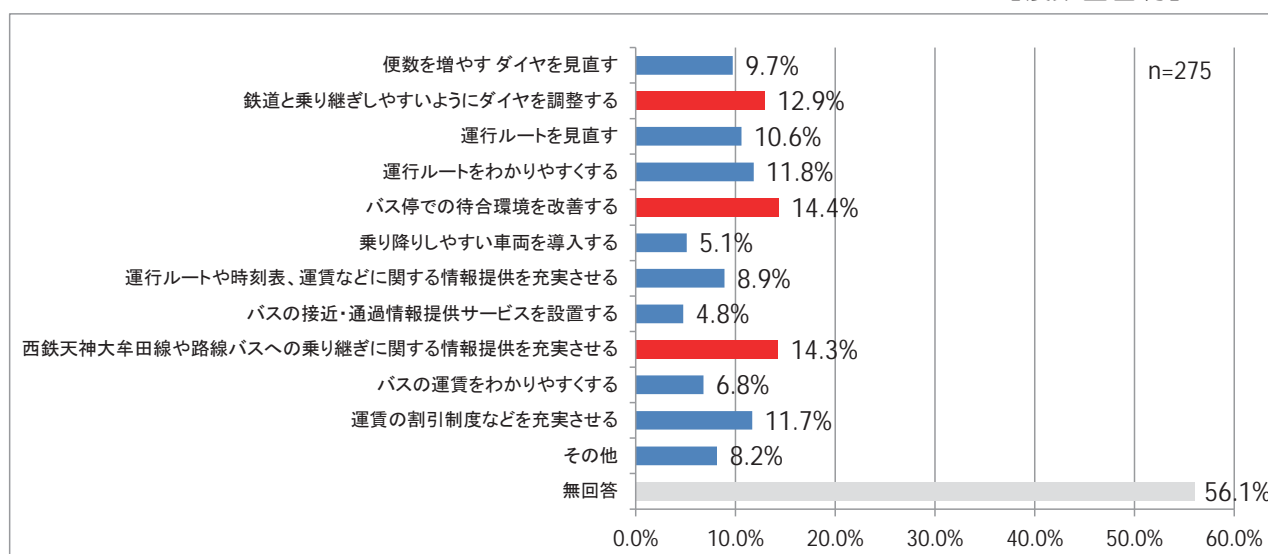


図 公共交通利用者の路線バス・コミュニティバスに対する不満点・改善点

(6)公共交通を利用しない理由

1) 鉄道を利用しない理由

○普段公共交通を使わない人（直近 1 ヶ月以内に鉄道、路線バス、コミュニティバスを利用しなかった人）に鉄道を利用しない理由について尋ねたところ、「そもそも鉄道を利用しようと考えたことがない」との回答が最も多くなっています（約 3 割）。

○また、「駅まで行くのが難しい、行くのが面倒」（約 2 割）や「家族など複数人数で利用すると、運賃が高つく」（1 割強）も多く回答されています。

【複数回答有】

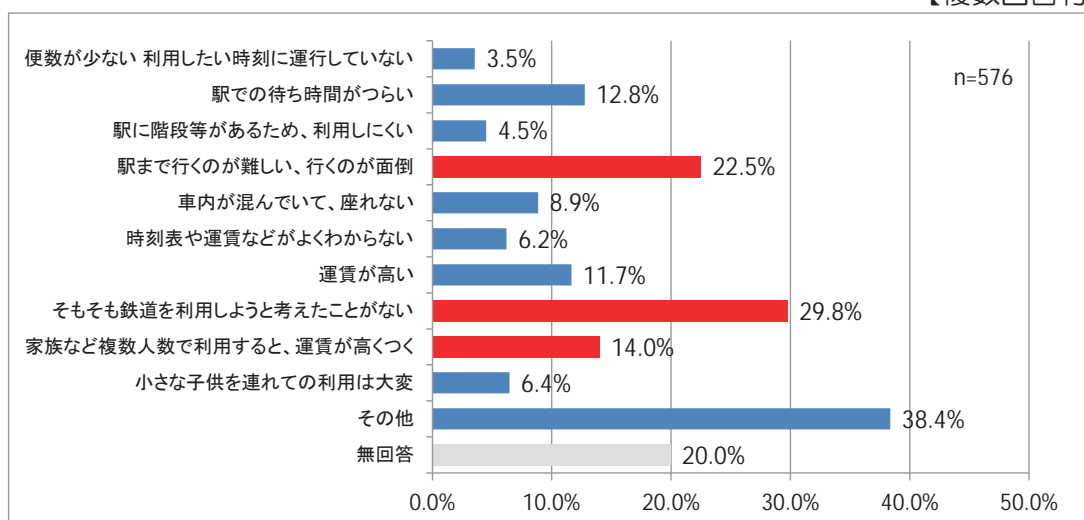


図 普段公共交通を使わない人の鉄道を利用しない理由

2) 路線バスを利用しない理由

○普段公共交通を使わない人に路線バスを利用しない理由について尋ねたところ、「そもそもバスを利用しようと考えたことがない」との回答が最も多くなっています（約 3 割）。

○また、「自宅や目的地からバス停が遠い」（約 2 割）や「利用できるバスがあるのか、よく知らない」（1 割強）、「バス停まで行くのが難しい、行くのが面倒」（1 割強）も多く回答されています。

【複数回答有】

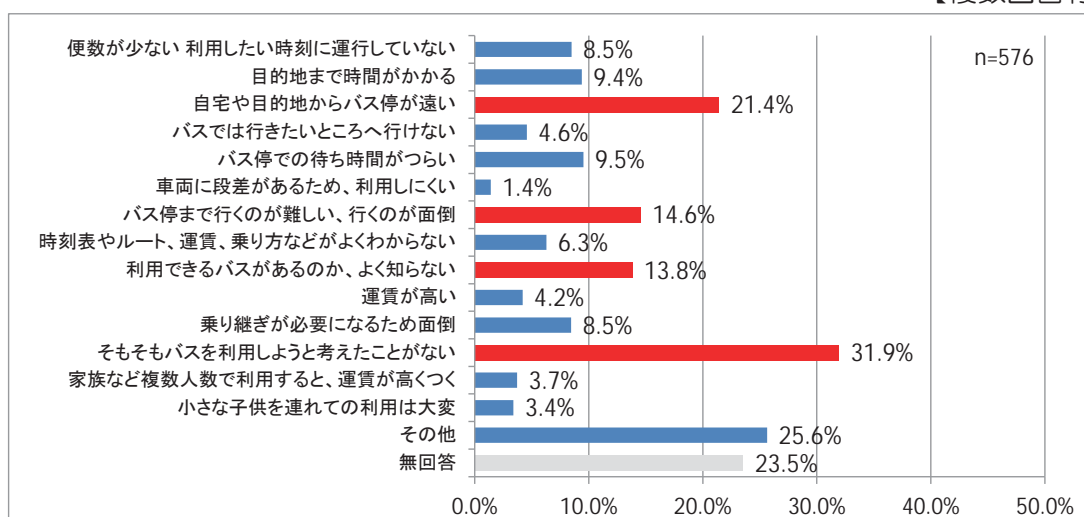


図 普段公共交通を使わない人の路線バスを利用しない理由

3) コミュニティバスを利用しない理由

- 普段公共交通を使わない人にコミバスを利用しない理由について尋ねたところ、「そもそもバスを利用しようと考えたことがない」との回答が最も多くなっています（約4割）。
- また、「利用できるバスがあるのか、よく知らない」（約2割）や「時刻表やルート、運賃、乗り方などがよくわからない」（約2割）も多く回答されています。

【複数回答有】

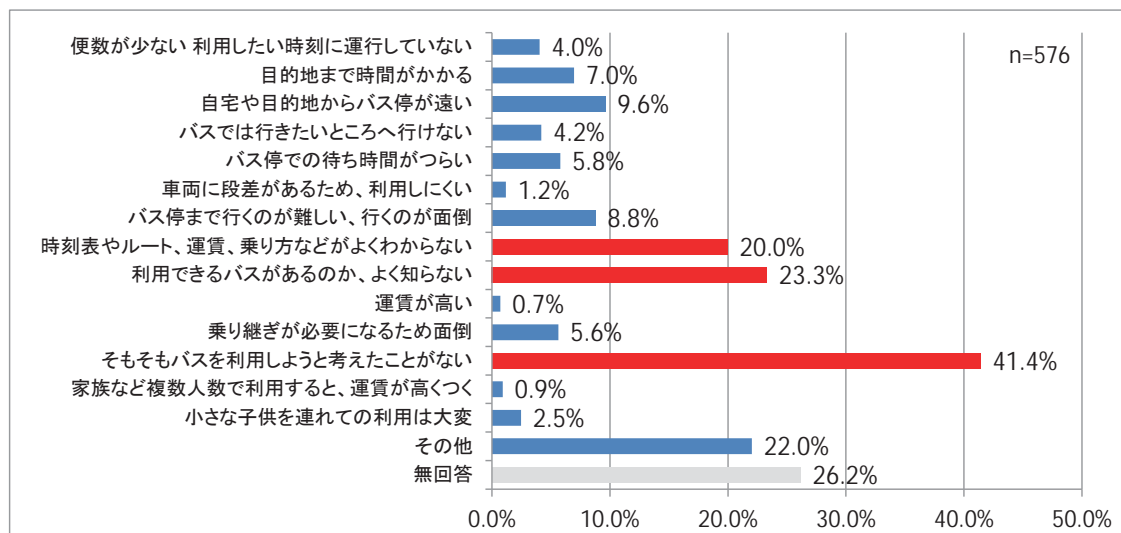


図 普段公共交通を使わない人のコミュニティバスを利用しない理由

(7)今後の公共交通のあり方について

○今後の柳川市における公共交通の必要性について、「必要だと思う」の回答割合が最も高かったのは「高齢者のくらしの足を支える公共交通」で約8割が回答しています。また、「通勤・通学や買物、通院など、くらしの足を支える公共交通」も約7割が回答しています。

○その他の項目についても5～6割が「必要だと思う」を回答しています。

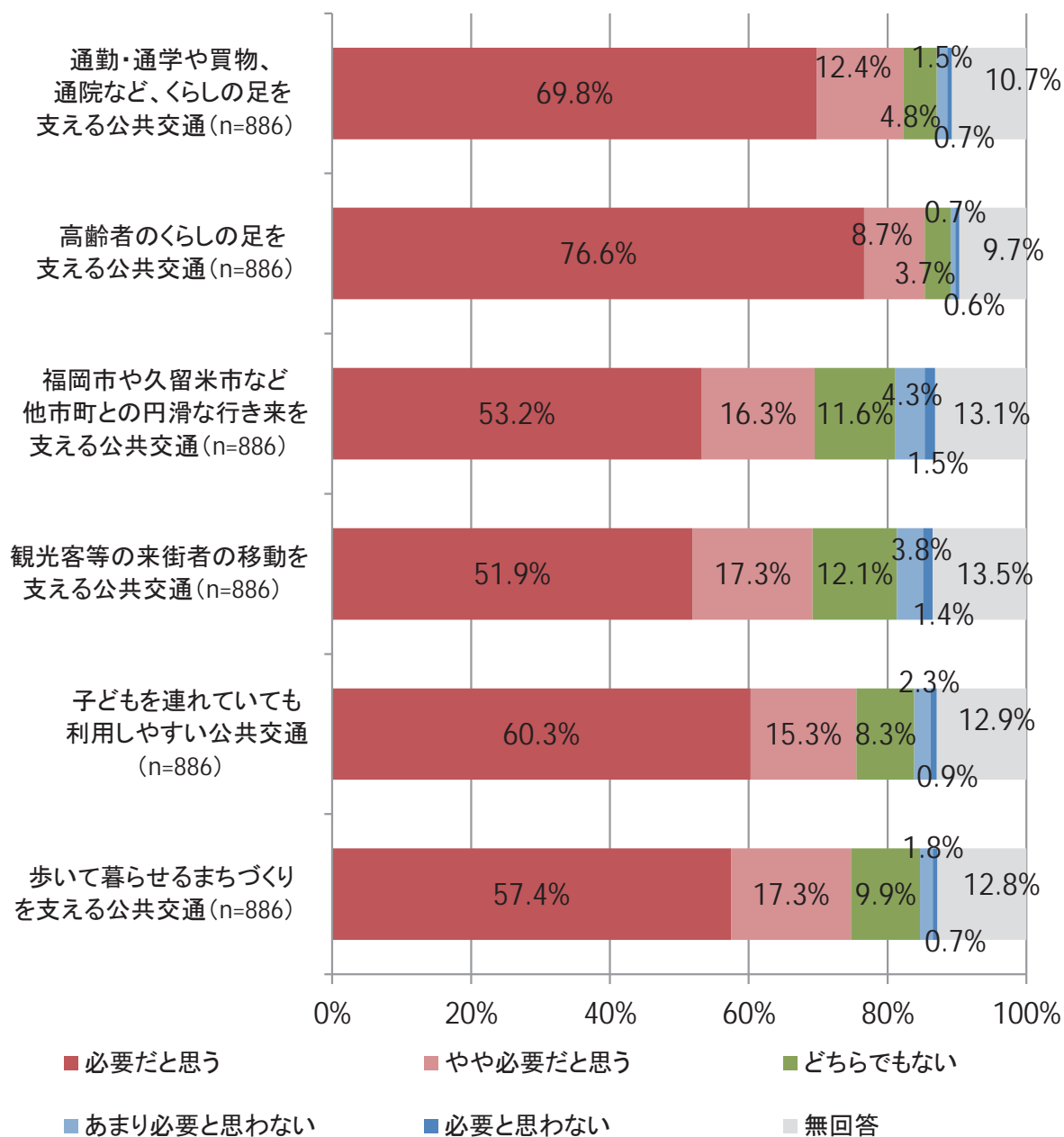


図 今後の柳川市における公共交通の必要性

(8)公共交通に関する取り組みについて

① 地域間格差の是正

○市内の公共交通サービスの地域間格差については、「よくわからない」との回答が最も多くなっています（7割弱）。高評価は「是正されたと思う」と「ある程度是正されたと思う」を合わせても1割未満となっています。

○一方で、約1割は「まだ是正されていない部分があると思う」を回答しています。

Q. 市では、コミュニティバスを旧三橋町や旧大和町に拡大導入していきました。あなたは市内の公共交通サービスの地域間格差が是正されたと思いますか？

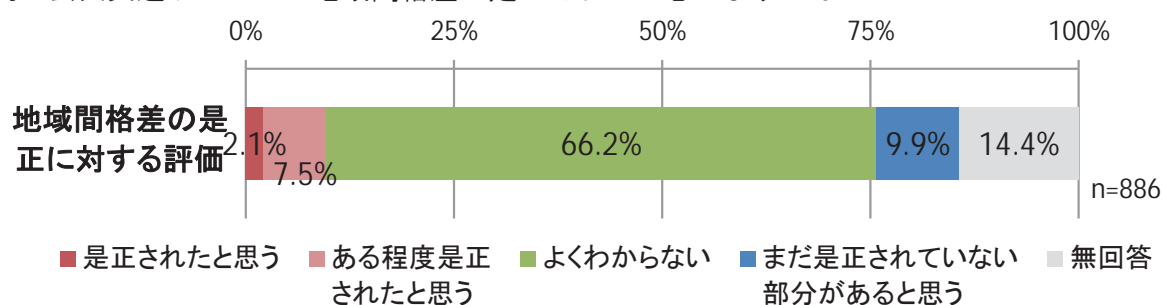


図 地域間格差の是正についての評価

② 高齢者の日常生活における移動手段の確保

○高齢者の日常生活における移動手段について、「よくわからない」との回答が最も多くなっています（約5割）。高評価は「確保されていると思う」と「ある程度確保されたと思う」を合わせて1割程度となっています。

○一方で、約2割が「まだ確保されていない部分があると思う」を回答しています。

Q. 市では、主に高齢者の日常生活における移動手段を確保するべく、コミュニティバスのダイヤやルートの見直しを行ってきました。あなたは高齢者の日常生活における移動手段が確保されていると思いますか？

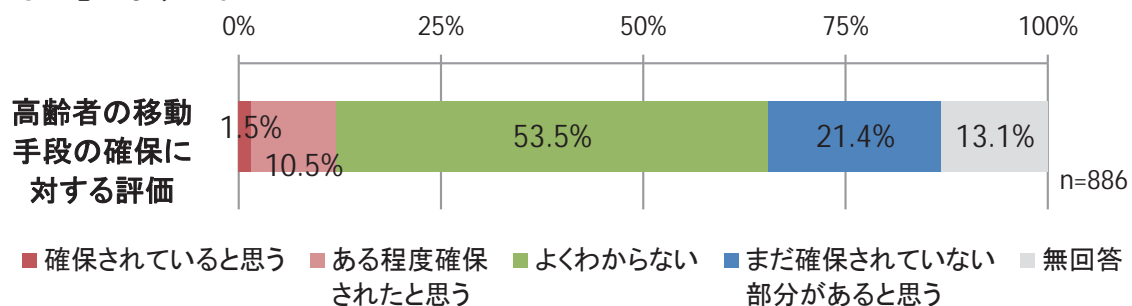


図 高齢者の日常生活における移動手段についての評価

③ 市内外の円滑な公共交通ネットワークの確保

○公共交通を利用した円滑な公共交通ネットワークについて、「よくわからない」との回答が最も多くなっています（約 6 割）。高評価は「円滑な移動が可能になっていると思う」と「ある程度円滑な移動が可能になっていると思う」を合わせて 1 割程度となっています。

○一方で、約 2 割が「円滑な移動ができない部分があると思う」を回答しています。

Q. 市では、コミュニティバス、路線バス、鉄道などを乗り継ぐことで市内外を移動できるようにルートやダイヤを設定してきました。あなたは公共交通を利用して円滑に市内外を移動できるようになっていると思いますか？

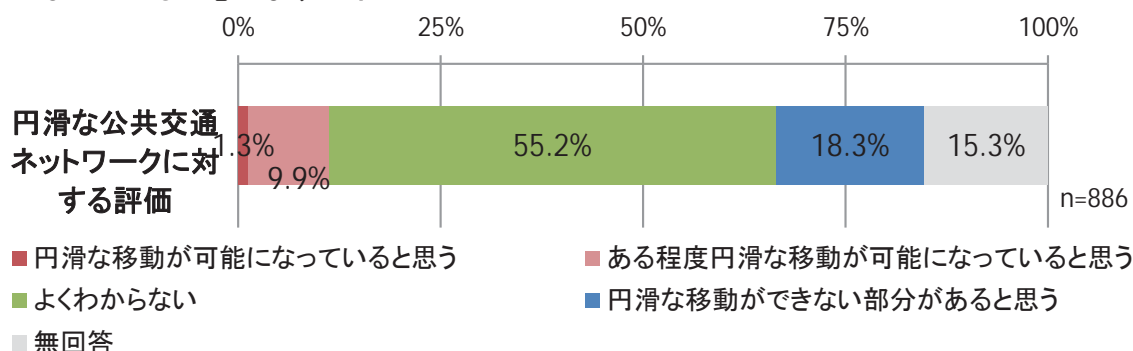


図 市内の円滑な公共交通ネットワークの確保についての評価

④ 市内の公共交通に対する満足度

○市内の公共交通に対する満足度について、「どちらでもない」との回答が最も多くなっています（約 4 割）。高評価は「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせて 1 割程度となっています。

○一方で、低評価は「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせて 3 割弱が回答しています。

Q. 市内の公共交通に対するあなたの満足度をお聞かせください

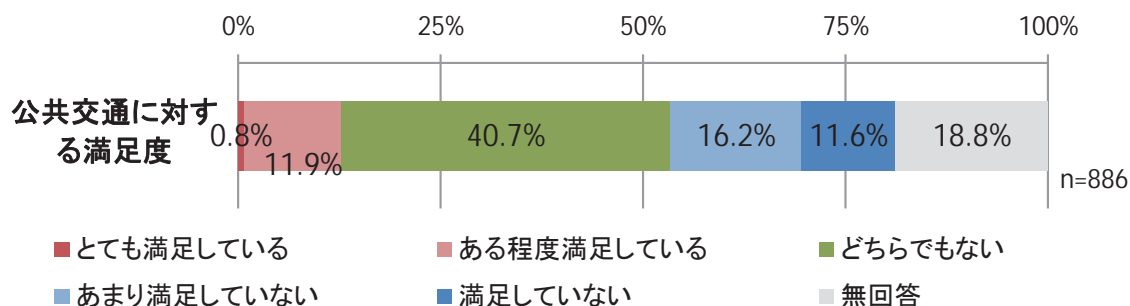


図 市内の公共交通に対する満足度

4-2 コミュニティバス利用者アンケート調査

(1) 調査の概要

調査目的	<ul style="list-style-type: none">・ コミバス利用者の外出特性の把握・ コミバス利用者のコミュニティバスに対する不満、改善要望の把握
調査対象	コミュニティバス全路線（8 路線）・全便
調査方法	直接配布・郵送回収
調査期間	配 布：平成 28 年 8 月 29 日（月）～9 月 3 日（土） 回答期間：平成 28 年 8 月 29 日（月）～9 月 10 日（土）
把握項目	<ul style="list-style-type: none">・ コミバス利用状況（乗降バス停、外出目的・外出先、外出時間帯、他交通手段への乗り継ぎ状況）、利用頻度、利用曜日・ 現状サービスに対する不満・改善要望・ 支払可能額・ 分析に必要な属性
回収状況	回収票数：76 票

(2)回答者の属性

○回答者は、約 8 割が女性であるのに対して、男性は約 5%と、圧倒的に女性の割合が高くなっています。

○年齢をみると、「80 歳以上」が 4 割強を占め、最も多く、次いで、「75～79 歳」、「65～74 歳」がそれぞれ 2 割前後となっており、65 歳以上で 9 割弱を占めています。

○回答者の運転免許並びに自家用車の保有状況をみると、約 8 割が「運転免許を持っている」を回答しています。

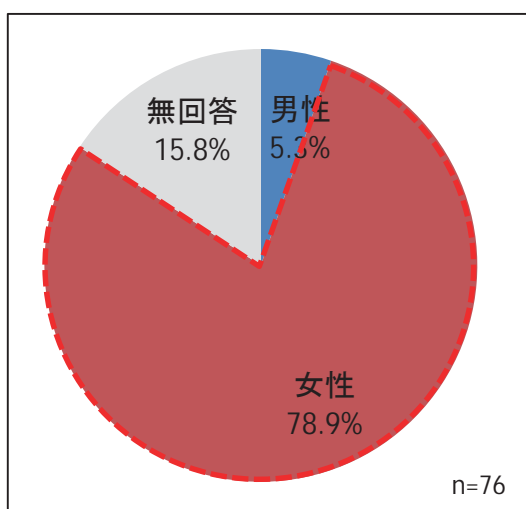


図 性別

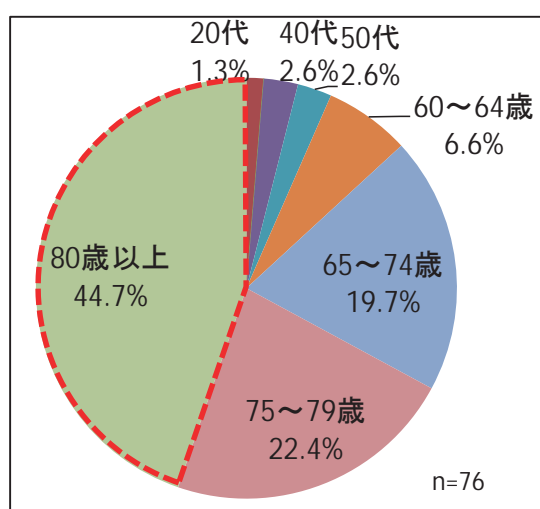


図 年齢

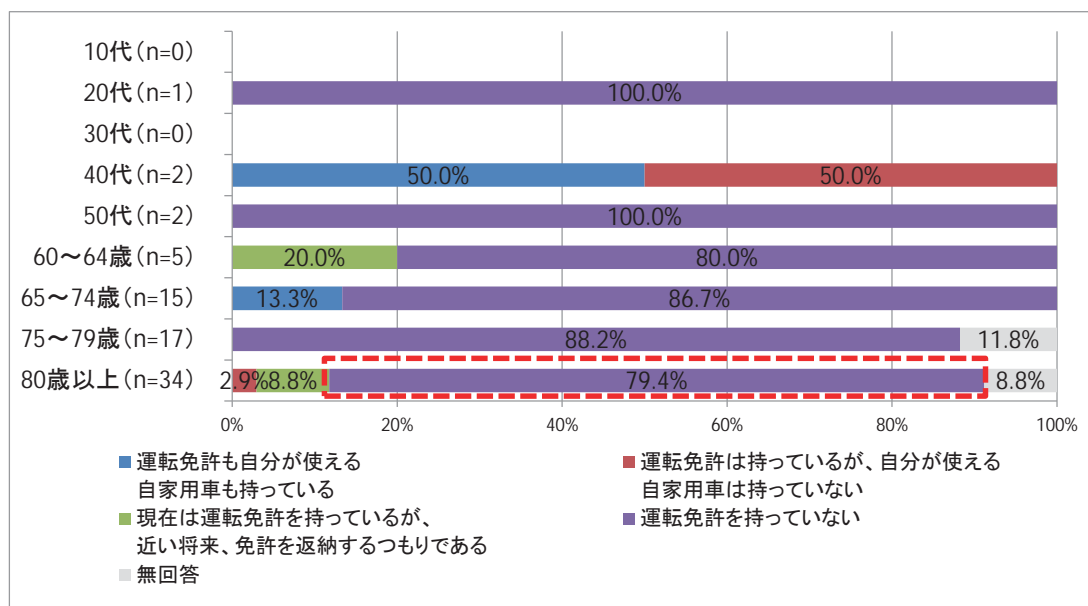


図 運転免許と自家用車保有状況

(3)コミュニティバスの利用実態

1) 主な外出目的

○回答者の主な外出目的では、「通院」が最も多く、回答者の約 6 割が回答しています。

○その他、「買物・飲食」が約 4 割、「公共施設」を約 2 割が回答しています。

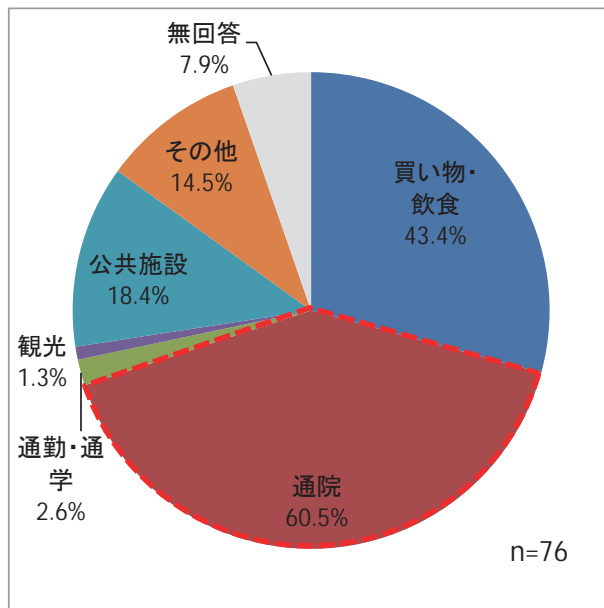


図 主な外出目的

表 主な外出目的
(その他の内訳)

n=11	
	票数
かんぽの宿	2票
温泉	2票
プール、カーブス(健康教室)	1票
知人宅	1票
入院している妹の看病	1票
美容室	1票
郵便局、銀行	1票
老々介護	1票
無回答	1票

2) 主な外出場所・施設名

○主な外出先については、「にしてつストア レガネット柳川」が最も多く、約 3 割が回答しています。その他、「柳川病院」(約 2 割)、「柳川リハビリテーション病院」(約 15%)、「長田病院」(約 1 割) の回答が多くなっています。

表 主な外出場所・施設名

n=76

【複数回答】

	割合		割合
柳川ショッピングモール	48.7%	眼科	2.6%
にしてつストア レガネット柳川	27.6%	歯科	2.6%
柳川ショッピングモール	9.2%	龍眼科	2.6%
こにし眼科	7.9%	TRIAL	1.3%
TUTAYA	2.6%	くろだ整形クリニック	1.3%
新生堂	1.3%	マミーズ中島店	1.3%
柳川病院	19.7%	久留米大学病院	1.3%
柳川リハビリテーション病院	14.5%	京町商店街	1.3%
長田病院	11.8%	新田歯科医院	1.3%
病院	5.3%	津留医院	1.3%
かんぽの宿 柳川	3.9%	藤吉医院	1.3%
スーパーまるまつ	3.9%	保養センター	1.3%
江頭整形外科医院	3.9%	柳川整骨院	1.3%
市役所	3.9%	龍外科	1.3%
柳川総合保健福祉センター「水の郷」	3.9%	星子医院	1.3%
Aコープ	2.6%	津末医院	1.3%
ダイソー	2.6%	京町まで	1.3%
マルキョウ	2.6%	無回答	23.7%

3) 鉄道・路線バスへの乗り継ぎ状況

○回答者のうち、鉄道や路線バスへの乗り継ぎについて、約 3 割が「乗り継ぐことがある」と回答しています。

○乗り継ぐ駅やバス停については、「柳川駅」や「水の郷」、「柳川ショッピングモール」、「京町商店街」があがっています。

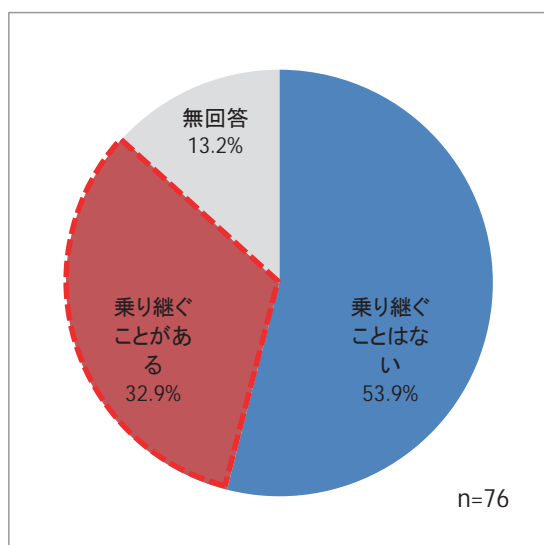


図 鉄道や路線バスへの乗り継ぎの有無

表 乗り継ぐ駅

n=25

	割合
西鉄柳川駅	52.0%
蒲池～柳川駅	4.0%
柳川ショッピングモール	4.0%
無回答	40.0%

表 乗り継ぐバス停

n=25

【複数回答】

	割合
水の郷	16.0%
柳川ショッピングモール	12.0%
京町商店街	12.0%
かんぽの宿	4.0%
三柱神社前	4.0%
市役所前	4.0%
水の郷～長田病院	4.0%
西鉄柳川	4.0%
大川行きバス	4.0%
無回答	40.0%

(4)コミュニティバスに対する不満点・改善点

○コミュニティバスに対する不満点・改善点について、約 4 割が「バス停での待合環境を改善する」や「運行ルートを見直す」を指摘、約 3 割が「便数を増やす ダイヤを見直す」を回答しています。

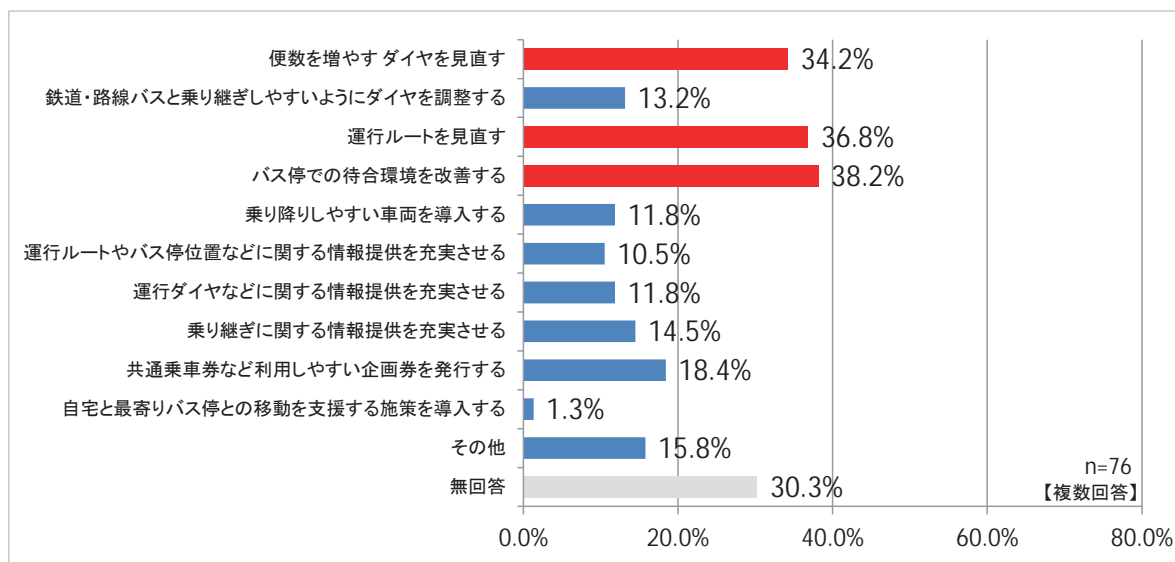


図 コミュニティバスに対する不満点・改善点

(5)支払可能額

○コミュニティバスの運賃について、約 2 割が現行通り「100 円」を回答する一方、約半数が現行運賃よりも高い運賃額を回答しています。

○現行運賃よりも高い運賃額を回答した中身は、「200 円」が最も多く全回答者の約 1/4 が回答しています。また、「300 円」が約 8%、「150 円」が約 7%となっています。

表 支払可能額：現行運賃との比較

	割合
現行通り(100円)	18.4%
現行より高い運賃	47.4%
その他	2.6%
不明・無回答	31.6%
計	100.0%

表 支払可能額

n=76	
	割合
200円	25.0%
100円	18.4%
150円	7.9%
300円	7.9%
500円	2.6%
120円	1.3%
130円	1.3%
400円	1.3%
90円～120円	1.3%
近距離100円、遠距離200円	1.3%
不明・無回答	31.6%
計	100.0%

4-3 福祉バスに関するアンケート調査

(1) 調査の概要

調査目的	・福祉バスの利用状況やニーズの把握
調査対象	・両福祉バスの送迎先である、三橋総合保健福祉センター「サンブリッジ」、大和総合保健福祉センター「まほろばやまと」の利用者
調査方法	直接配布・センターに設置する回収ボックスでの回収
調査期間	配 布：平成 28 年 8 月 22 日（月）～8 月 27 日（土） 回答期間：平成 28 年 8 月 22 日（月）～9 月 3 日（土）
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用頻度 ・福祉バスの利用有無及び利用頻度 ・福祉バスを利用しない理由 ・福祉バスの今後の利用意向 ・福祉バスを利用する理由 ・福祉バス利用者の外出特性（居住地、施設利用時間帯、利用曜日、立ち寄り先） ・福祉バスを利用するための条件、現サービスへの不満・改善要望 ・分析に必要な属性
回収状況	回収票数：71 票

(2) 福祉バスの利用状況

○福祉バスの利用について、三橋、大和両保健福祉センターともに、約 8 割が「利用したことがない」と回答しています。

○「いつも利用している」との回答者は大和保健福祉センターにみられ、約 1 割が回答しています。なお、三橋保健福祉センターでは「いつも利用している」との回答は見られません。また、「たまに利用している」との回答は、三橋保健福祉センターで約 2 割、大和保健福祉センターで約 1 割となっています。

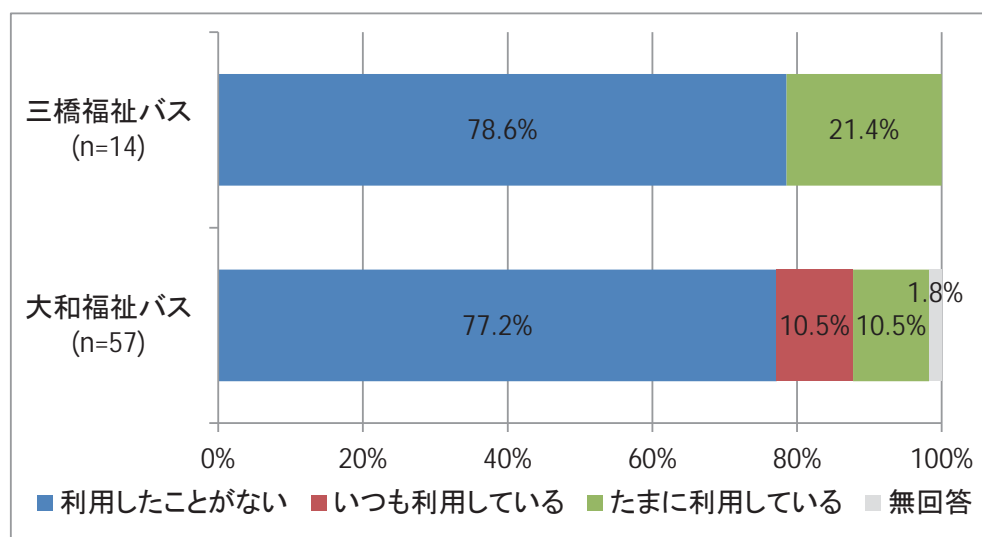


図 福祉バスの利用状況

(3)福祉バスを利用しない理由と今後の利用意向

○福祉バスを利用したことがないと回答した人の福祉バスを利用しない理由は、両施設ともに「マイカーを利用しているから」が最も多く、大和保健福祉センターで約 8 割、三橋保健福祉センターで約 5 割が指摘しています。

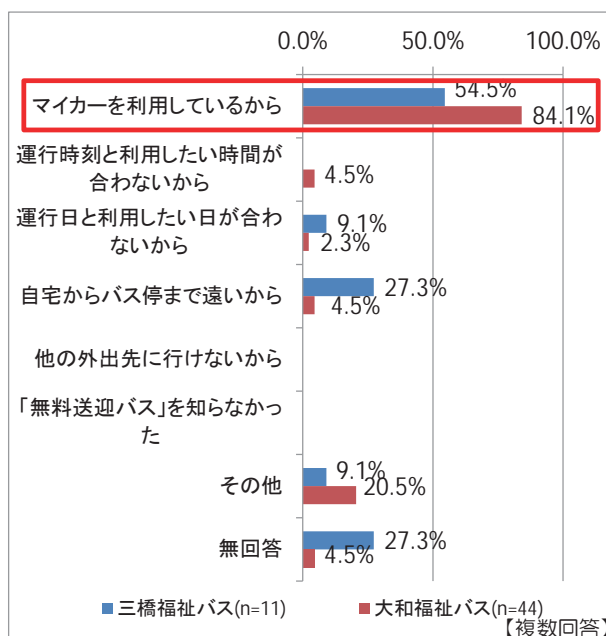


表 福祉バスを利用しない理由
(その他の内訳)

n=10	
	票数
自転車を利用するから	6票
バイクを利用するから	1票
バスがコースにない	1票
センターまで近い	1票
バスの通り道な自宅前にとまって	1票

図 福祉バスを利用しない理由

○今後の利用意向については、両施設ともに 6 割弱が「利用することはない」と回答しています。一方で、「福祉バスを利用しない要因が解消されれば利用したい」「福祉バスを知ったので今後は利用したい」との回答がそれぞれ 1 割強回答しています。

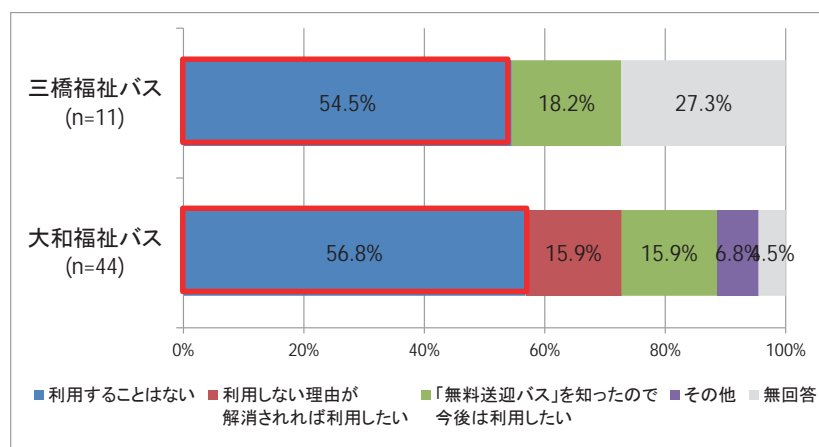


図 調査施設別の今後の利用意向

表 調査施設別の今後の利用意向：その他の内訳

n=3	
	票数
利用したいけど、バス停まで遠いから	1票
無回答	2票

(4)福祉バスを利用する理由と福祉バスに対する不満点

○福祉バス利用者は福祉バスを利用する理由については、両施設ともに「無料だから」が最も多く、大和保健福祉センターで約 8 割、三橋保健福祉センターで約 3 割が回答しています。また、その他、大和保健福祉センターでは「他に利用できる交通手段がない」や「車内やバス停で友人や知人と会話ができる」も回答されています。

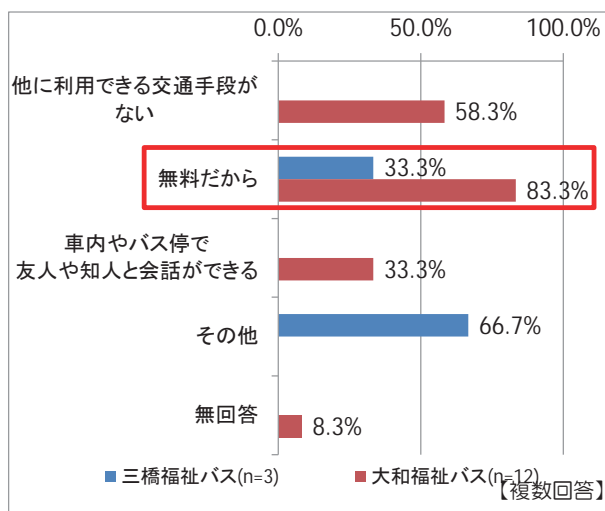


表 福祉バスを利用する理由
(その他の内訳)

	n=2
水の郷まで行く	2票

図 福祉バスを利用する理由

○福祉バスに対する不満点・改善点については、「便数が少ない」が最も多く、3 割弱が回答。その他、「自宅からのバス停が遠くて不便」を約 2 割が回答しています。

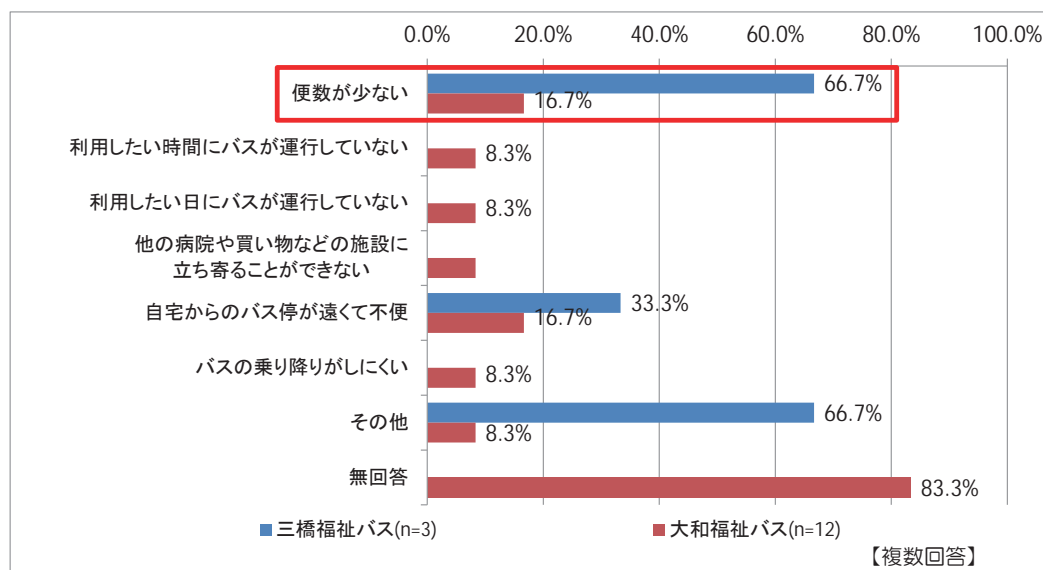


図 福祉バスに対する不満点

表 福祉バスに対する不満点：その他の内訳

	n=3
	票数
100円バスを水の郷まで出してほしい	2
営業所からのせてほしい	1

4-4 柳川駅利用者聞き取り調査

(1) 調査の概要

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳川駅利用者の移動特性の把握 ・ 西鉄バス利用者の利用特性 ・ 堀川バス利用者の利用実態 ・ 西鉄大牟田線を利用して来街する観光客等の市内の移動手段や公共交通に対するニーズ等の把握 		
調査対象	・ 西鉄柳川駅を利用する市民及び来街者		
調査方法	1 対 1 の対面方式による聞き取り調査 (柳川駅西口の 2 ヶ所の出口を基本に、時間帯によって柔軟に調査位置を変えつつ、実施。特に、東口については堀川バスの出発時刻に合わせて移動し、調査を実施)		
調査日及び調査時間帯		平日	休日
	調査日	平成 28 年 9 月 7 日 (水)	平成 28 年 9 月 3 日 (土)
	調査時間帯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 時～10 時 (3 時間) : 主に市外からの通勤・通学者を対象 ・ 12 時～14 時 (2 時間) : 主に市民の買物・通院・その他私用を対象 ・ 16 時～19 時 (3 時間) : 主に市民の通勤・通学を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 時～18 時 (9 時間) : すべての利用者を対象
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用時間帯 ・ 駅まで (から) の移動手段 ・ 乗車・降車バス停 (駅) ・ 目的地 (外出先) ・ 利用頻度 ・ 公共交通に対するニーズ ・ 分析に必要な属性 		
回収状況	回収票数 : 330 票		

(2)回答者の属性

○回答者の約 6 割は女性、約 4 割が男性と、女性が多い回答結果となっています。

○回答者の年齢は「20-30 代」が約 4 割と、最も多く、次いで「40-64 歳」が約 3 割となっています。また、「10 代」「65-74 歳」がそれぞれ 1 割強を占めています。

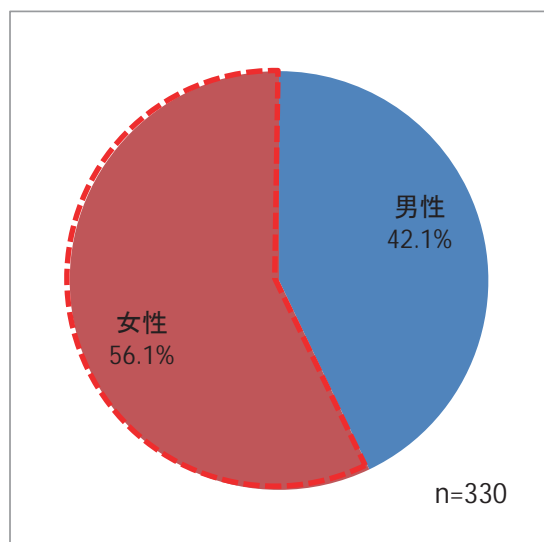


図 回答者の性別

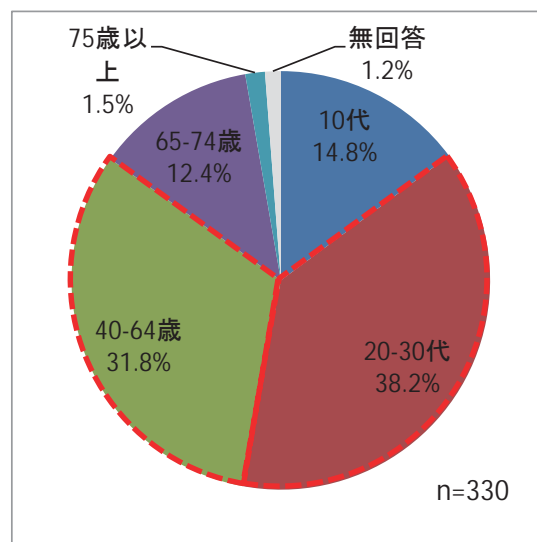


図 回答者の年齢

○回答者はほぼ日本人で、県内居住者が約 9 割、県外居住者が約 7%となっています。

○県内居住者の内訳では、市内居住者が約半数、市外居住者は約 4 割を占めています。

○市内居住者の内訳では、「三橋地域」が最も多く、半数近くを占めています。また、「柳城地域」や「昭代地域」が 1 割強を占めています。その他、「大和地域」や「柳南地域」、「蒲池地域」居住者が数%となっています。

○市外居住者の内訳では、「福岡市」が最も多く、約 2 割を占めています。次いで、「大川市」(約 17%)、「久留米市」(約 16%)、「みやま市」(約 14%)、「大牟田市」(約 12%)となっています。

表 回答者の居住地

n=330			割合
国内	県内		98.2%
			91.5%
		市内	48.8%
		市外	42.7%
	県外		6.7%
海外			0.6%
無回答			1.2%
計			100.0%

表 市内の内訳

n=169		割合
柳城地域		16.6%
昭代地域		13.6%
蒲池地域		3.6%
柳南地域		5.3%
大和地域		6.5%
三橋地域		45.0%
その他		7.7%
無回答		1.8%

表 市外の内訳

n=141		割合
福岡市		18.4%
久留米市		17.0%
大川市		17.0%
みやま市		14.2%
大牟田市		13.5%
筑紫野市		4.3%
小郡市		3.5%
三潁郡		2.8%
筑後市		2.1%
春日市		1.4%
太宰府市		1.4%
大野城市		1.4%
北九州市		1.4%
うきは市		0.7%
八女市		0.7%

- 居住地別に回答者の年齢をみると、市内居住者は「10代」が約2割、「20～30代」は約4割を占め、比較的若い年齢層の利用が多くなっています。一方、65歳以上の高齢者の利用は1割程度と少なくなっています。同様の傾向は、大川市・みやま市居住者にもみられます。
- 大川市・みやま市以外の市外居住者をみると、「40～64歳」の割合が高くなっており、遠方から柳川市に來街している人は年配者が多い傾向がみられます。

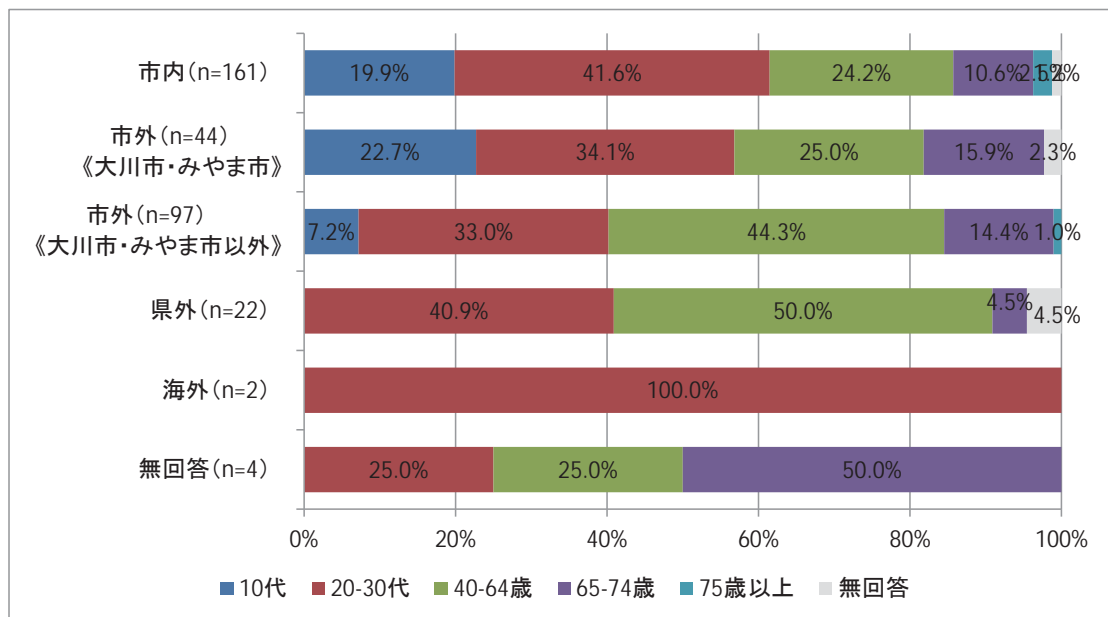


図 居住地別回答者の年齢

(3) 駅利用者の移動特性

1) 外出目的

○外出目的については、「通勤」が最も多く、約 3 割を占めます。次いで、「通学」が約 2 割を占めます。

○その他、「買物」が約 1 割、「通院」が約 6%、「観光」は約 3%となっています。

○「その他」では、帰宅や帰省、知人や家族への訪問などが回答されています。

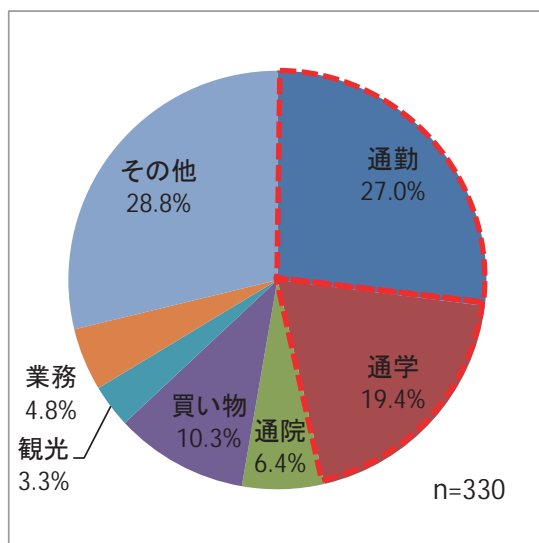


図 駅利用者の外出目的

表 その他の外出目的の内訳

n=95	
	票数
帰宅	23票
帰省・知人への訪問	21票
お見舞い	7票
習い事	4票
親戚宅訪問	4票
温泉治療	3票
遊び	3票
仕事	2票
出張	2票
部活	2票
その他	15票
無回答	9票

2) 柳川駅まで（から）の移動手段

○柳川駅まで（から）の移動手段について、「西鉄バス」が最も多く、約 2 割を占めています。また、「堀川バス」も約 1 割を占めています。

○また、「自家用車（家族等の送迎）」が 2 番目に多く、2 割弱を占めます。「自家用車（自分で運転）」（約 3%）を合わせると、クルマでのアクセスは全体の約 2 割を占めます。

○その他、「徒歩」も多く（約 1 割）、駅利用者の中には駅近くに自宅や勤務先等の外出先を持つ人が相当数を占めることがうかがえます。

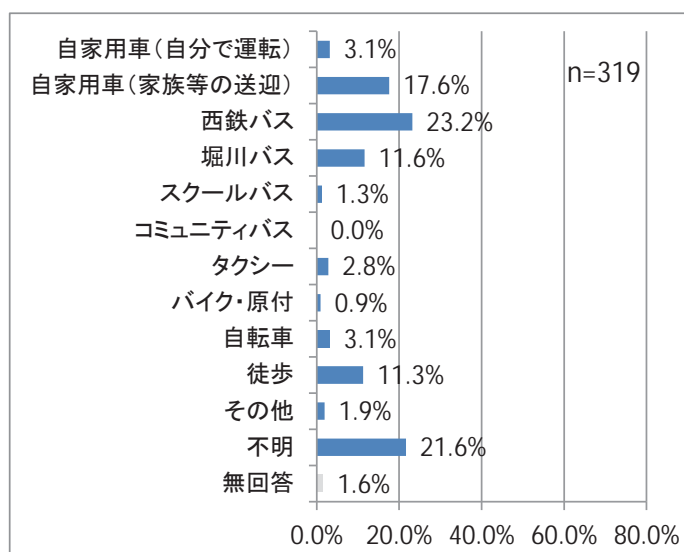


図 柳川駅まで（から）の移動手段

3) 通勤者の柳川駅まで（から）の移動手段

○通勤者の柳川駅まで（から）の移動手段は、「徒歩」(約 2 割) が最も多く、次いで「西鉄バス」(約 2 割)、「自家用車（家族等の送迎）」(1 割強) となっています。

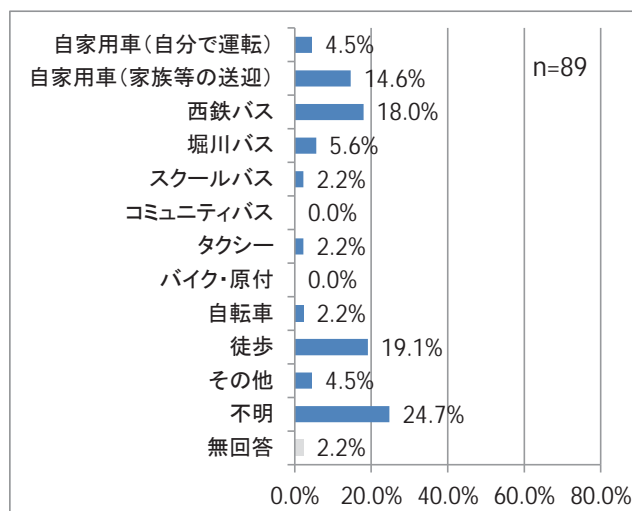


図 柳川駅まで（から）の移動手段：通勤者

4) 通学者の柳川駅まで（から）の移動手段

○通学者の柳川駅まで（から）の移動手段は、「自家用車（家族等の送迎）」(約 2 割) が最も多く、次いで「西鉄バス」(約 2 割)、「堀川バス」(約 1 割) となっています。

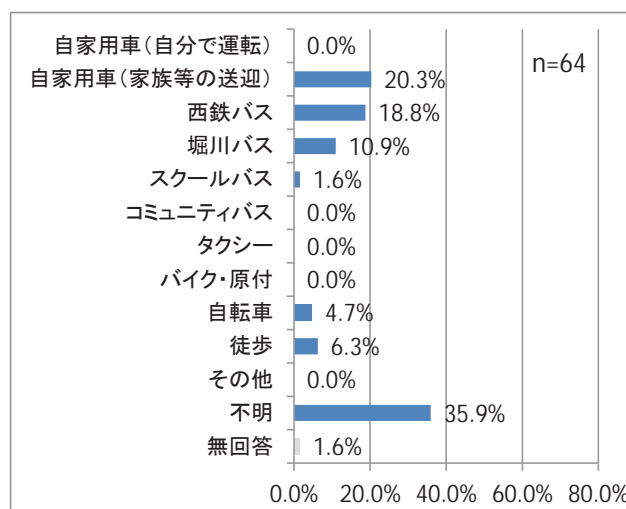


図 柳川駅まで（から）の移動手段：通学者

5) 観光客の柳川駅まで（から）の移動手段

○柳川駅まで（から）の移動手段について、観光客では「徒歩」(約 5 割)、「川下り送迎バス」(約 2 割)、「タクシー」(約 2 割)、「路線バス」(約 2 割) が回答されています。

表 観光客の柳川駅まで（から）の移動手段
n=11
【複数回答】

	割合
川下り送迎バス	18.2%
タクシー	18.2%
レンタカー	0.0%
路線バス	18.2%
レンタル自転車	0.0%
徒歩	45.5%
不明	9.1%
その他	36.4%
無回答	0.0%

(4) 路線バス利用者の路線バスに対する不満等

1) 路線バスに対する不満点

○路線バスに対して、路線バス利用者からは「利用したい時刻にバスがない」(約2割)、「時刻表よりも遅れてくることがある」(約1割)との回答があがっています。

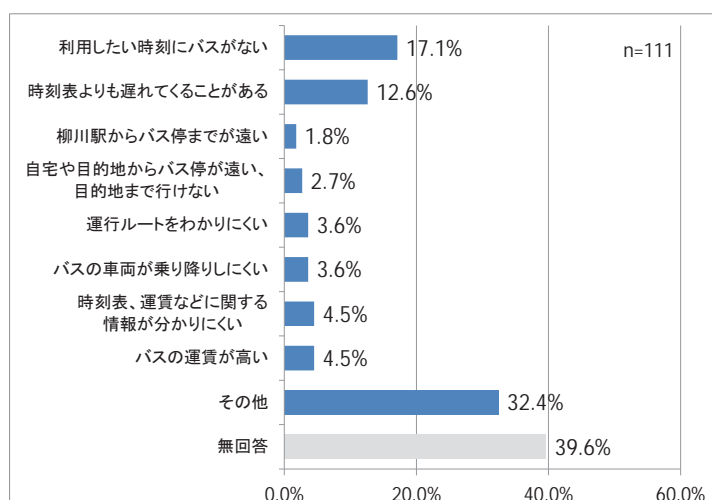


図 路線バスに対する不満点

2) 乗り継ぎに対する改善要望

○鉄道との乗り継ぎについて、路線バス利用者からは「ダイヤを調整する」(1割強)、「待合環境を改善する」(1割弱)、「バスの接近・通過情報提供サービスを設置する」(1割弱)との回答があがっています。

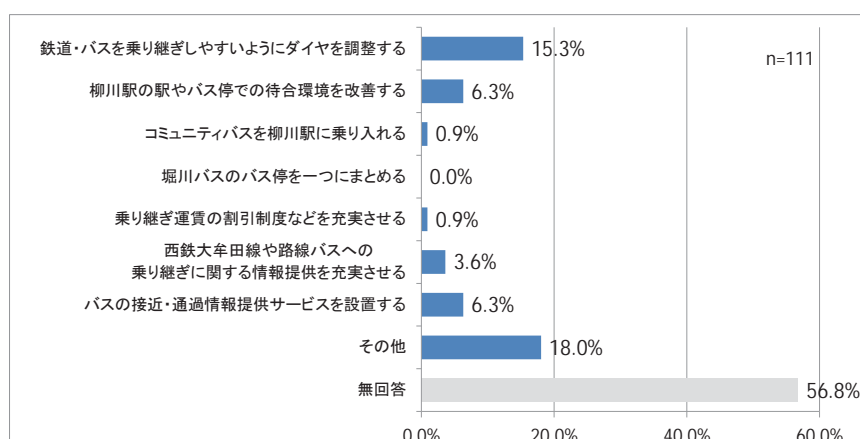


図 乗り継ぎに対する改善要望

(5) 観光客の柳川市内を観光するにあたって公共交通に望むこと

○柳川市内を観光するにあたって、観光客が公共交通に望むこととして、「観光地付近にバス停を設置」(約2割)、「観光施設と公共交通がセットになった企画券の販売」(約2割)、「路線図、時刻表、運賃等のわかりやすい情報の提供」(約2割)との回答があがっています。

表 観光客が公共交通に望むこと

	割合
駅から観光地まで運行するバス路線の整備	9.1%
市内の観光地を周遊できるバス等の整備	0.0%
路線バスの増便	0.0%
観光地付近にバス停を設置	18.2%
市内の乗り降りが自由な乗車券の販売	0.0%
観光施設と公共交通がセットになった企画券の販売	18.2%
路線図、時刻表、運賃等のわかりやすい情報の提供	18.2%
バスの接近・通過情報サービスの提供	0.0%
その他	27.3%
無回答	36.4%

4-5 交通事業者ヒアリング調査

(1) 調査の概要

調査目的		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民及び観光客等来街者の市内における移動特性の把握 ・ 市民及び観光客等来街者の公共交通に対する不満・改善要望等の把握 ・ 公共交通全体の利用促進に向けた連携施策や効率的な公共交通ネットワークの形成に向けた役割分担等に関する意見の収集
調査対象		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内のタクシー事業者 4 社 ・ スクールバスを運行している高校 2 校 ・ 川下り送迎バスを運行している川下り会社 2 社
調査方法		個別訪問によるヒアリング
調査期間		タクシー事業者：平成 28 年 8 月 18 日（木） スクールバス：平成 28 年 8 月 23 日（火）、8 月 25 日（木） 川下り会社：平成 28 年 8 月 25 日（木）
把握項目	タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシーの利用特性 ・ 公共交通に対するタクシー利用者の不満や要望 ・ 公共交通全体の利用促進に向けたアイデア ・ 公共交通の効率化に向けた意見 ・ 事業者が抱える問題点・課題
	スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクールバスの運行状況 ・ スクールバスの収支状況および学校のスクールバスに対する考え方 ・ 高校生の公共交通に求めるニーズ ・ 事業者が抱える問題点・課題
	川下り送迎バス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎バスの運行状況 ・ 観光客の 2 次交通の状況 ・ 公共交通に対する送迎バス利用者の不満や要望 ・ 相乗効果を生む連携施策に向けたアイデア ・ 事業者が抱える問題点・課題

(2) タクシー事業者

		調査結果
タクシーの利用特性	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 数年前から減少傾向。 ・ 減少理由は、景気の低迷、運転手の不足により約 1 割が休車状態。 ・ コミュニティバスの運行で、タクシー利用者が減少している。 ・ 輸送実績は、平成 21 年度と比較すると柳川地区で平均 83%～85%まで落ちている。 ・ 自家用車の普及や運転代行の利用が増えたため、特に夜間の利用が落ち込みがひどい。
	利用者の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全般的に高齢者が多い。 ・ 昼間の時間は高齢者の通院、買物での利用が多い。 ・ 1 回平均 1000 円（約 3 km）の利用。 ・ バス停や駅から離れている人の利用が多い。 ・ 1 人での利用が 6 割ほどである
	地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳川市西部、南部への配車が多い。特に昭代地区、両開地区の利用が多い。 ・ コミュニティバスだと時間がかかるため、急ぎの人や救急の人がタクシーを利用している。 ・ 観光客については、歩いて回れるところが多く、距離が短いため、初めから最後までタクシーを利用する方は少ない。 ・ 観光での利用は、川下りをした後の帰りのタクシー利用がある。
や改善要望	利用者の不満	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスの経費負担より、タクシー補助券を配布した方が良いのではないか。 ・ 柳川駅構内のタクシー乗り場が離れており、着物の客が雨の日に濡れてしまい、苦情をいただいた。 ・ タクシー乗場が駅施設から離れているため、お客様からクレームあり。 ・ バスのスペースを取りすぎている。タクシーの利便性のことも考えてほしい。
	公共交通全体の利用促進に向けたアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産大牟田散策キップのような、柳川市内の食事、観光、タクシー等で利用できるチケットが柳川市内のタクシー全社でできれば、観光客をもっと取り込めるのではないか。 ・ 鉄道と川下りとタクシーをセットにした割引券を販売している。 ・ nimoca による電子マネーポイントサービス。1 日 20 件ほどの利用がある。 ・ 西鉄電車と提携した利用チケット。1 日 10 件ほどの利用がある。 ・ 高齢者や免許返納者への割引の実施。
	公共交通の効率化に向けた方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らしの高齢者の SOS 確認を行政・福祉・タクシーとの連携ができないか。 ・ 高齢者向けのタクシーの福祉チケットを配布すれば、タクシー利用客が戻ってくれるのではないか。 ・ バスは定時で決まった路線を走り、何十人でも運べる。一方、タクシーはアトラダムで走ることができるが、4 人までしか乗せることができない。 ・ この棲み分けを明確にして検討すべきである。
課題	タクシーの運行を継続していくための課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスはバス停まで歩かないといけませんが、タクシーはドア to ドアの移動が可能である。そうした部分にタクシーのメリットがある。デマンド交通とはサービスが競合するため導入する場合には慎重な検討が必要。 ・ 柳川駅の構内のタクシー乗り場が離れており、途中、屋根がない。 ・ 現状、乗務員の確保が困難である。 ・ 運転手の高齢化と若い新規運転手の減少。 ・ 運転免許返納者への支援制度としてタクシー運賃助成券の導入を検討してほしい。

(3)スクールバス

		調査結果
スクールバスの利用状況	運行状況	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森高校では、八女方面、広川方面、久留米方面、大牟田方面に計 5 ルート運行。車両はマイクロバス 3 台、大型車 1 台、中型車 1 台。各ルート朝夕 1 便ずつ運行。八女方面のみ部活専用ダイヤを運行。 ・柳川高校では、柳川駅と学校を結ぶシャトルバスを朝夕 4 便ずつ運行。また、久留米・大川方面、筑後・みやま方面、広川方面に計 4 ルート運行。
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森高校では全校生徒数 400 名のうち、約 100 名がスクールバスを利用。 ・柳川高校では、シャトルバスを 120～130 名が利用。スクールバスは約 50 名が利用
公共交通に求めるニーズ	スクールバスの運行時間に間に合わない場合の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスに間に合わない時には家族に送迎を頼んでいる生徒が多い。 ・中には電車やバスを利用している生徒もいる。
	スクールバスを利用していない生徒の通学手段	<ul style="list-style-type: none"> ・両校とも自宅から直接自転車を利用している生徒が大半を占める。また、柳川駅まで西鉄天神大牟田線で来て、駅近辺の駐輪場に止めている自転車を利用している生徒も多い。 ・杉森高校では堀川バスを利用している生徒は少数。しかしながら、雨天時は自転車を利用している生徒が利用するため堀川バス利用者は多い。 ・柳川高校においても、雨天時は自転車利用者がシャトルバスを利用するため、雨天時は混雑する。
スクールバスの運行を継続していくための課題		<ul style="list-style-type: none"> ・学校側で運転手を雇って運行したほうが経費を抑えられるかもしれないが、車両の整備等が必要となるため、手間がかかり、委託する方が都合がいい。しかし、最近はスクールバスの運行を受け持ってくれる業者が少なく、その確保が課題。 ・委託費を削減したい。例えば、通学時間帯はスクールバスとして使用し、昼間は一般バスとして使用するなど、車両を活用していければいい。

(4)川下り送迎バス

		調査結果
川下り送迎バスの利用状況	運行状況	<ul style="list-style-type: none"> ・水郷柳川観光(株)では、乗船場から御花まで片道で運行。帰りは送迎バスを運行。送迎バスは、土日祝等お客が多い日は 12:30～16:45 で、20～30 分間隔で運行。平日等少ない日は 1 日 4 便 (13:40、14:40、15:40、16:40) 運行。マイクロバス 1 台、ワゴン車 2～3 台を使用。 ・大東エンタープライズでは、御花近くの駐車場から柳川駅近くの乗船場までバスで運搬し、乗船場から御花まで川下り。川下り後の送迎バスは柳川駅まで送迎しており、1 ヶ月に 10 回程度、年間約 150～200 回運行している。
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・川下りに来る観光客は 6～7 割がマイカー利用。他には西鉄天神大牟田線やツアーバスで来街している。 ・水郷柳川観光(株)の場合、8～9 割が川下り後の送迎バスを利用している。送迎バスが運行していない午前中や夕方遅くの利用者はタクシーや路線バスを利用している。 ・大東エンタープライズの場合、御花側に駐車場があることもあり、柳川駅までの送迎利用は全体利用者に比して僅かである。
公共交通に対する送迎バス利用者の不満や改善要望		<ul style="list-style-type: none"> ・御花周辺からの路線バスの便数が少ない。そういった声があることもあって送迎バスを運行している。
相乗効果を生む連携施策に向けたアイデア		<ul style="list-style-type: none"> ・川下りから戻る際の交通手段のチラシの配布 (路線バスの時刻表、運賃、タクシーの運賃、無料送迎バスの時刻表) ・西鉄・JR とセットとなった企画券の販売 ・観光周遊バスの運行 (川下り後の乗船場地点までの移動にも利用可能なもの)
送迎バス運行についての今後の意向		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎バスの運行経費はかかっているが、路線バスの便数が増えたとしても送迎バスの運行を辞める予定はない。 ・送迎バスは川下りをやっている以上必然的なサービスと考えている。

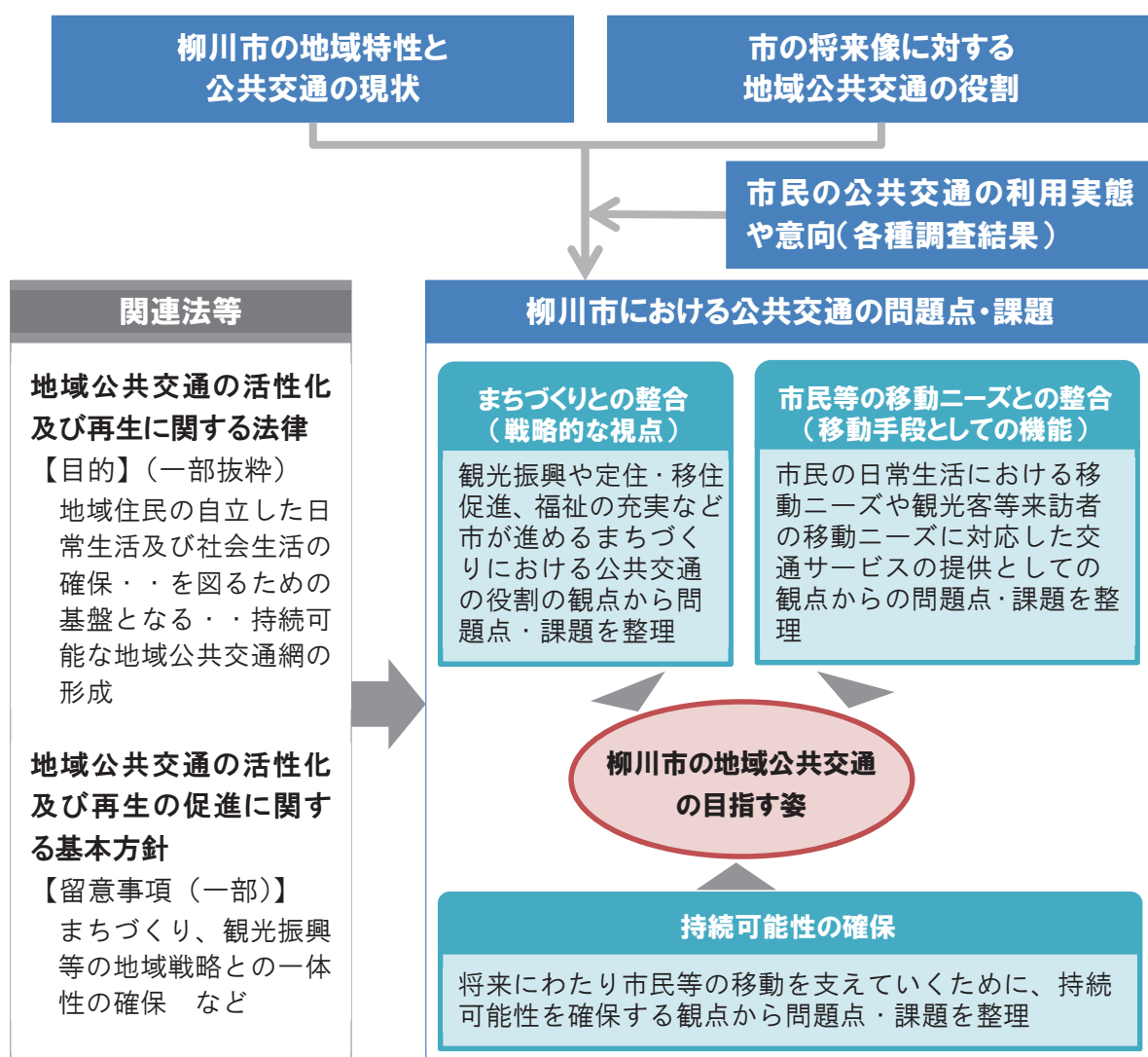
5. 柳川市の公共交通の問題点・課題

5-1 柳川市の公共交通の問題点・課題の考え方

前章までに整理した本市の地域特性や公共交通の現状、本市の将来像における公共交通の役割、市民の公共交通に対する意向等を踏まえて、本市における公共交通の問題点・課題を整理しました。

ここで、本計画が基づく「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の目的には“地域住民の自立した日常生活及び社会生活の確保を図るための基盤となる持続可能な地域公共交通網の形成”が位置付けられています。また、「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」では「まちづくり、観光振興等の地域戦略との一体性の確保」が地域公共交通網形成計画の作成に関する基本的な事項として求められています。

こうした点を踏まえて、問題点・課題の整理にあたっては、「まちづくりとの整合の観点みた課題」「市民等の移動ニーズへの対応の観点からみた課題」「持続可能性の確保の観点からみた課題」の三つの観点から整理しました。

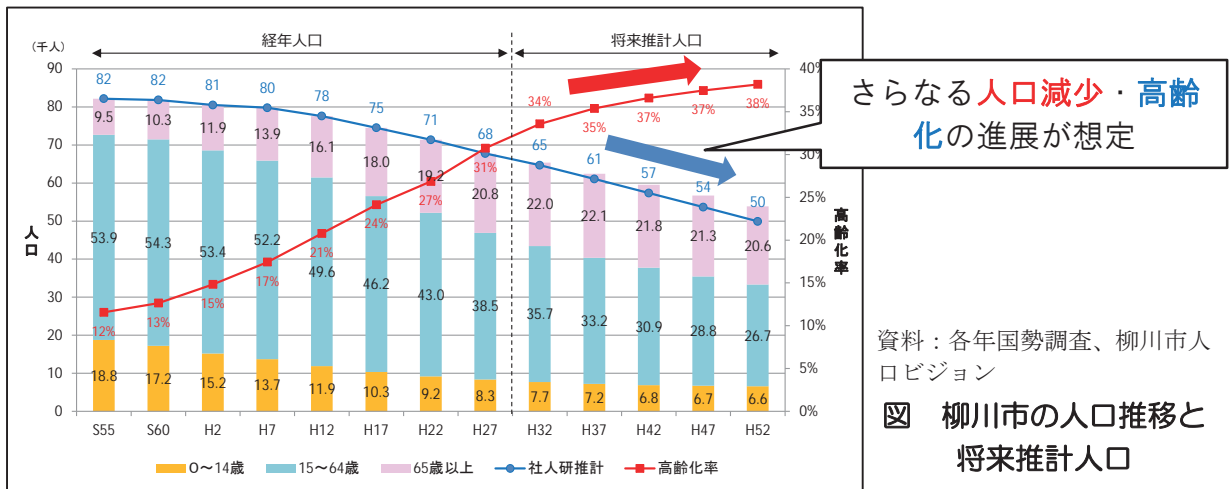


5-2 まちづくりとの整合の観点からみた課題

(1)コンパクトな都市づくりに向けた西鉄柳川駅周辺へのアクセスの確保

- ・人口減少・高齢化が進展し、集落が市全域に広く点在している本市においては、今後も住み続けられる街を実現していくために、歩いて暮らすことができる※コンパクトな都市づくりへの転換が求められています。
- ・市内各地から公共交通で都市機能が集積する西鉄柳川駅周辺にアクセスできる環境を形成していく必要があります。

※“歩いて暮らすことができる”とは、自動車に頼らなくても日常生活の移動ができる環境を指す



都市計画マスタープラン

【都市づくりの基本理念】

理念1：

あらゆる世代が快適に“歩いて暮らせる”都市づくり

自らの交通手段を持たない、いわゆる交通弱者の暮らしやすさは重点課題

資料：柳川市都市計画マスタープラン

図 公共交通の整備方針図



(2)生涯学習や健康づくりなどの推進に向けた活動拠点へのアクセスの確保

- ・本市では市民がまちに愛着を持ちいきいきと暮らしていくために、地域コミュニティの醸成や生涯学習の推進、文化芸術活動の振興、スポーツ活動の推進、子育て環境の充実、健康づくり、高齢者の生きがいづくりなどを進めています。
- ・市民の一人ひとりが取り組みに参加できるよう、それぞれの活動拠点へのアクセスの確保が求められます。

表 まちづくり分野ごとの活動拠点の一覧

生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センター、あめんぼセンター、総合保健福祉センターへのアクセスの確保 ・市民文化会館（仮）へのアクセスの確保
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども連れでも利用しやすい移動手段の確保
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関へのアクセスの確保 ・生涯学習センター、あめんぼセンター、総合保健福祉センターへのアクセスの確保

資料：第2次柳川市総合計画



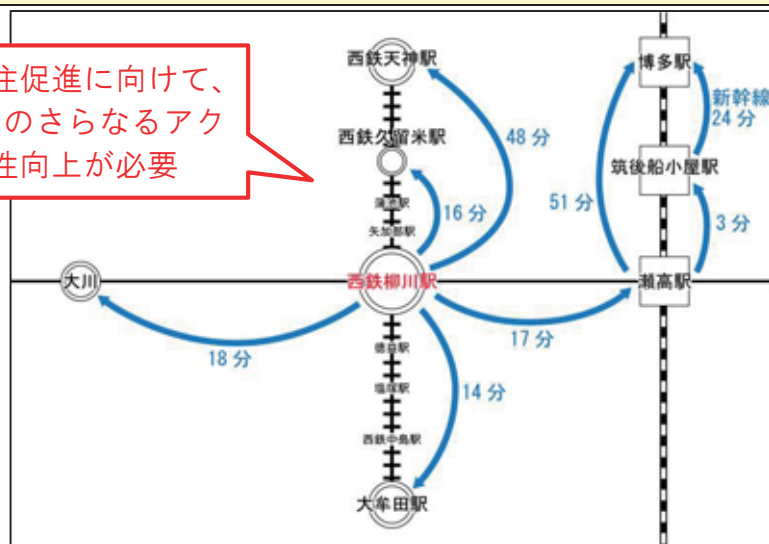
資料：柳川市資料

図 公的施設の位置図

(3) 定住・移住促進に向けた西鉄柳川駅を拠点とした市内外への円滑なアクセスの確保

- ・人口減少が進む本市においては、福岡市等他都市へのアクセス環境を PR し、定住・移住促進を図る必要があります。
- ・そのため、西鉄天神大牟田線のさらなる利便性向上や西鉄柳川駅までのアクセスの充実などが求められます。

定住・移住促進に向けて、
他都市へのさらなるア
クセス性向上が必要



資料：西鉄 HP、JR 九州 HP、堀川バス HP

図 柳川市から主要都市までの公共交通でのアクセス所要時間

(4) 観光振興に向けた円滑な来街アクセスの確保や市内周遊環境の形成

- ・本市は観光振興を地域づくりの核として推進しており、さらなる交流人口の拡大に向けて市の玄関口である西鉄柳川駅から観光拠点までの円滑なアクセスの確保や市内の観光地の周遊を促す環境整備が必要です。

観光振興に向けて、西鉄柳
川駅から観光拠点までの円
滑なアクセスの確保が必要

観光振興に向けて、市内の
観光地の周遊環境が必要



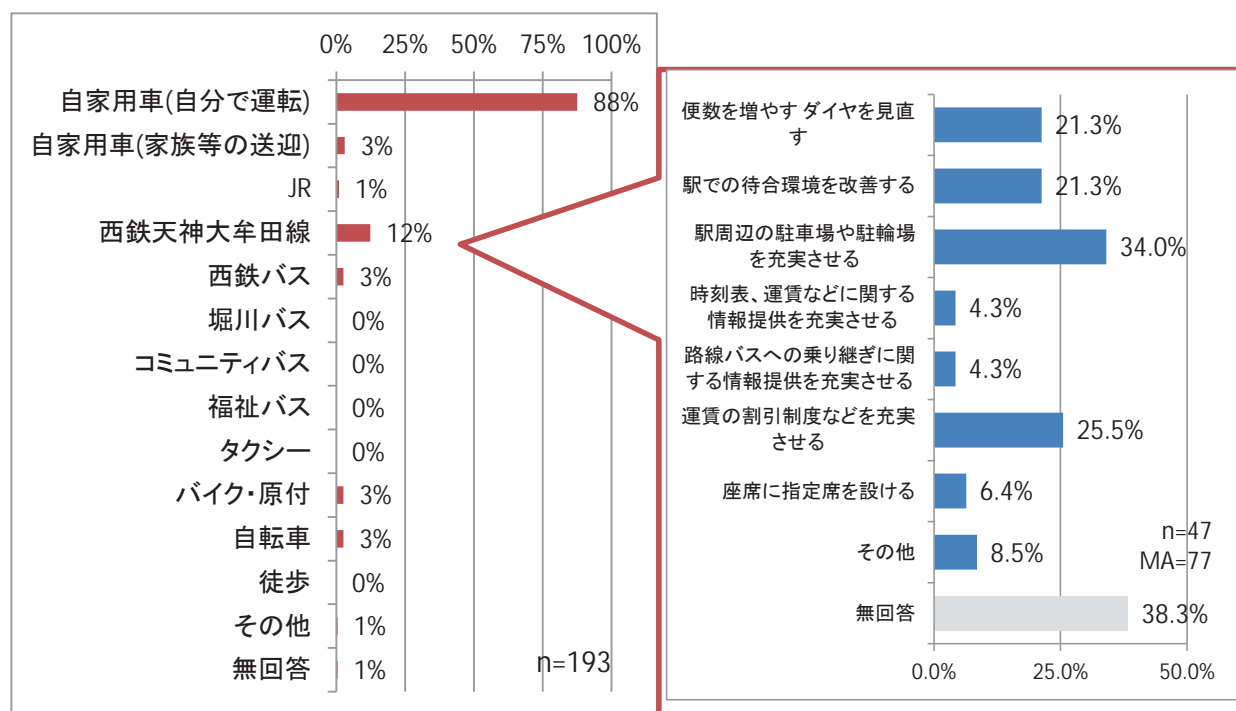
資料：柳川市資料

図 観光資源の分布状況と公共交通ネットワーク

5-3 市民等の移動ニーズへの対応の観点からみた課題

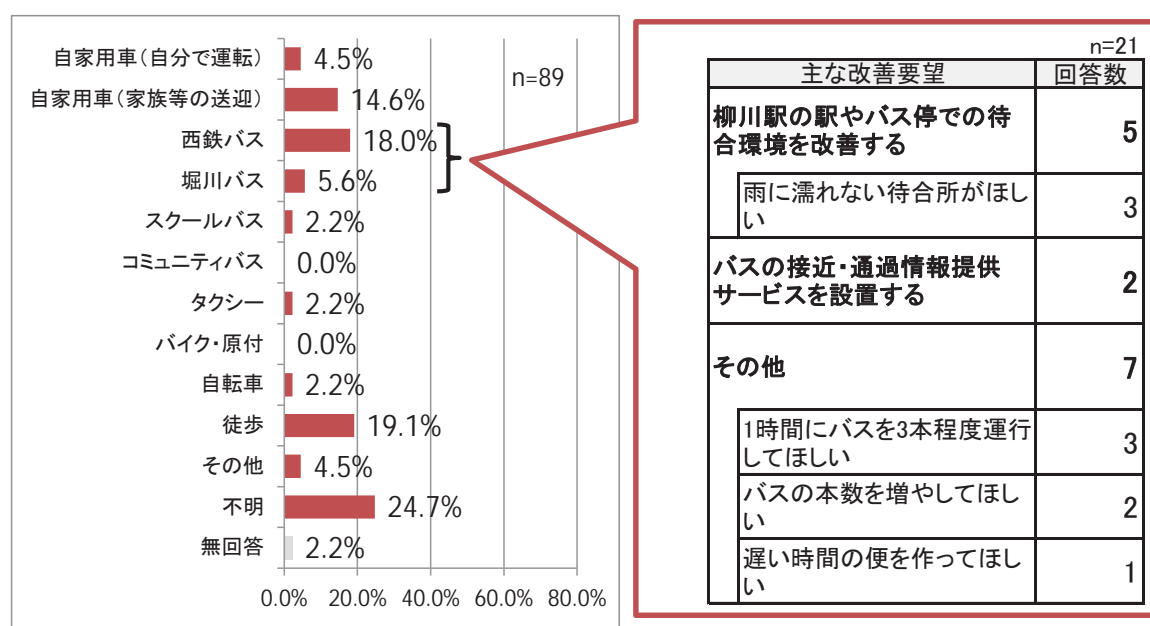
(1) 市外に通勤・通学する市民の円滑な移動の確保

- ・市外に通勤している市民の約1割が西鉄天神大牟田線を利用しており、「駅周辺の駐車場や駐輪場の充実」や「運賃の割引制度などの充実」などの改善要望を挙げています。
- ・また、西鉄柳川駅利用の通勤者の約2割が駅までのアクセス、あるいは駅からの移動に路線バスを利用しており、「駅の待合環境の改善」や「バスの運行本数の見直し」などを求めています。



資料：市民アンケート

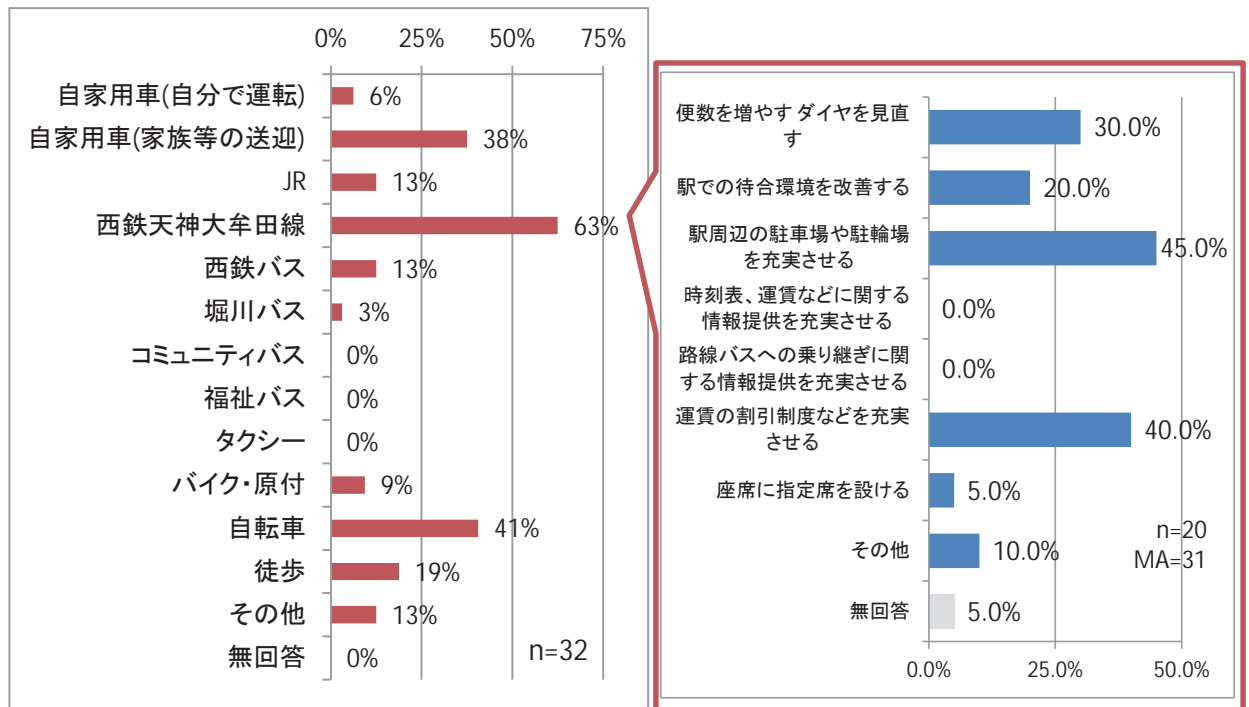
図 市外通勤者の通勤手段と西鉄天神大牟田線を利用する市外通勤者の鉄道に対する改善要望



資料：柳川駅利用者聞き取り調査

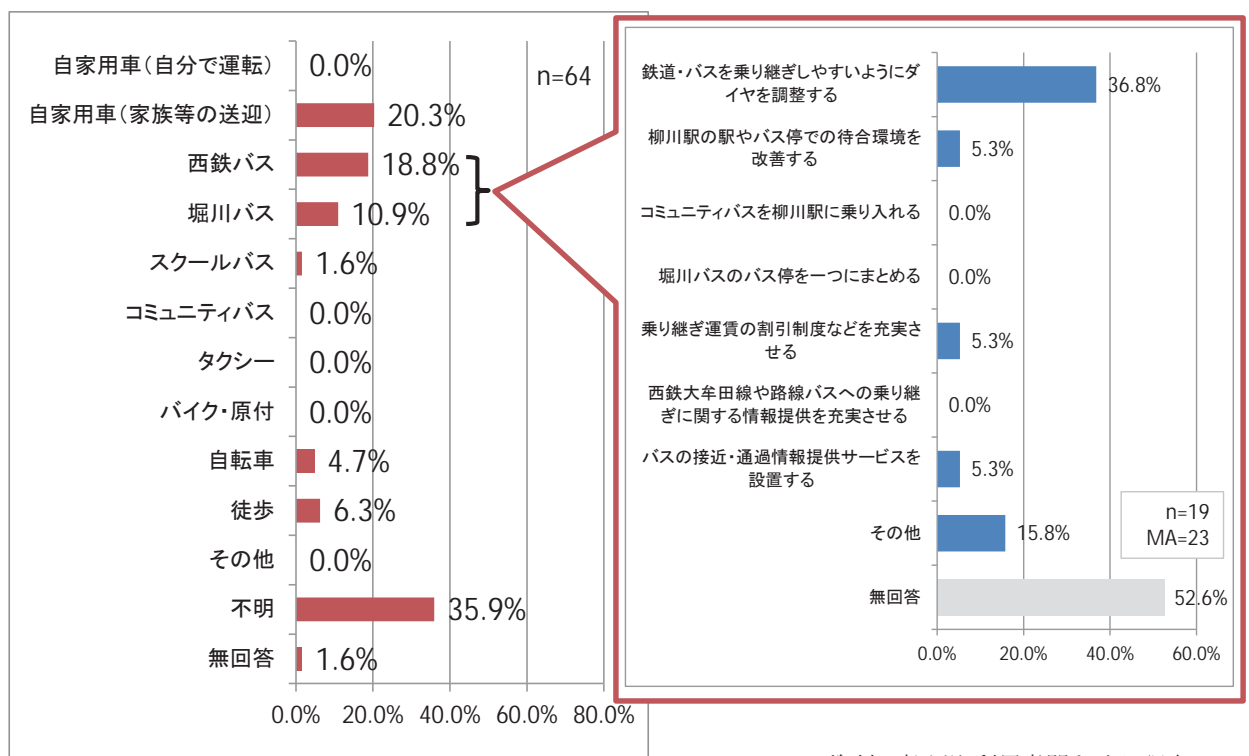
図 通勤者の駅までのアクセス手段と路線バスでアクセスする駅利用者の改善要望

- ・市外に通学している市民の約6割が西鉄天神大牟田線を利用しており、「駅周辺の駐車場や駐輪場の充実」や「運賃の割引制度などの充実」、「増便やダイヤの見直し」などの改善要望を挙げています。
- ・また、西鉄柳川駅利用の市外への（市外からの）通学者は、「西鉄天神大牟田線と路線バスのダイヤ調整」の要望も挙げています。



資料：市民アンケート

図 市外通学者の通学手段と西鉄天神大牟田線を利用する市外通学者の鉄道に対する改善要望

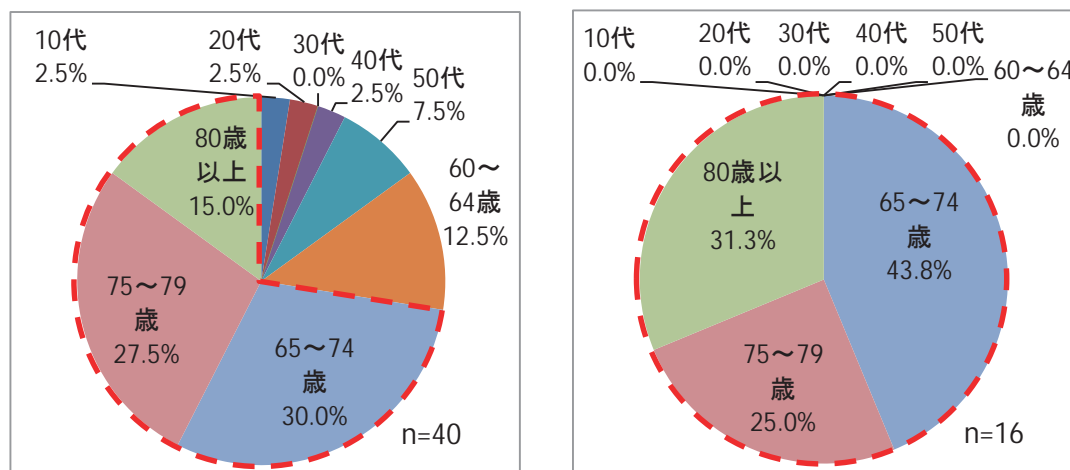


資料：柳川駅利用者聞き取り調査

図 通学者の駅までのアクセス手段と路線バスでアクセスする駅利用者の改善要望

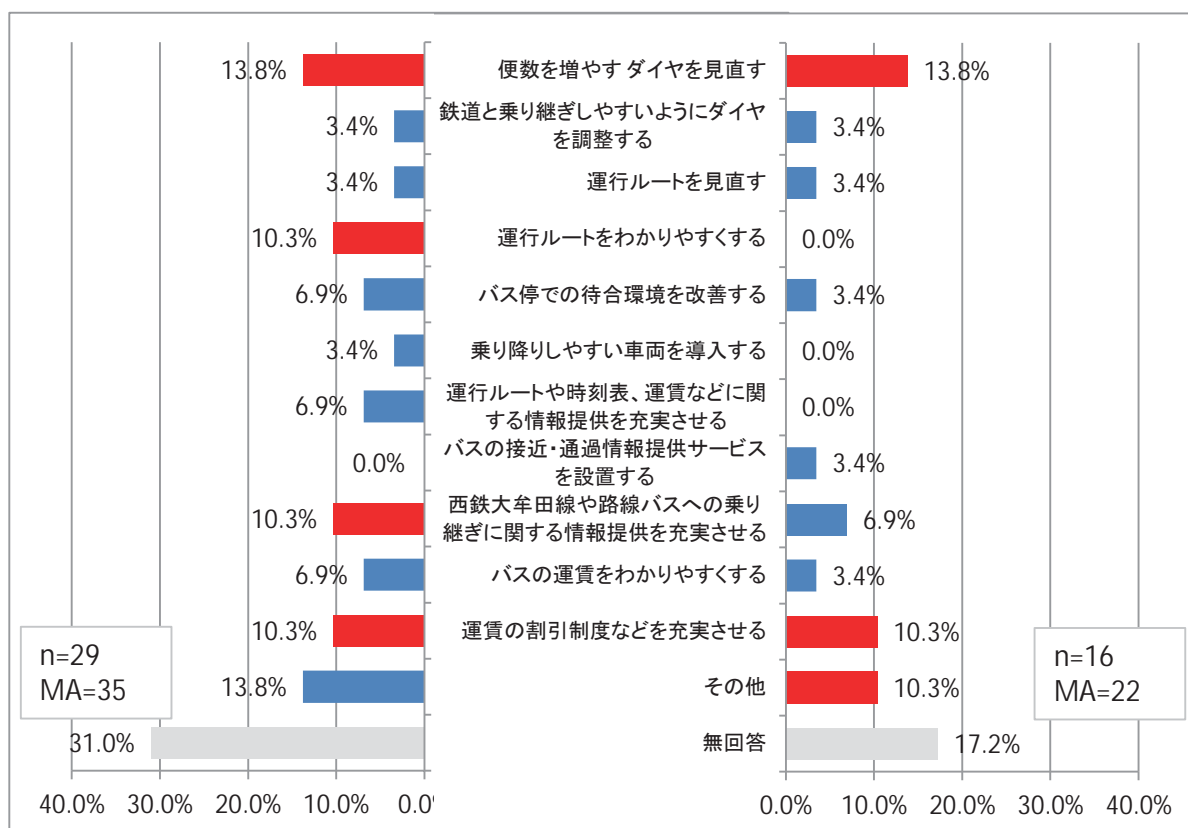
(2)高齢者の市内生活利便施設へのアクセスの確保

- ・買い物や通院で公共交通を利用している人の多くは高齢者となっています（買い物：約7割、通院：全員）。今後想定される高齢社会の進行を考えると、高齢者の移動を支える公共交通の役割がますます高まっています。
- ・公共交通を利用する高齢者からは路線バス・コミュニティバスに対して「便数を増やすダイヤを見直す」や「運行ルートを見直す」などの改善要望が挙げられています。



資料：市民アンケート

図 公共交通を利用して市内に買物・通院する市民の年齢構成（左：買い物、右：通院）

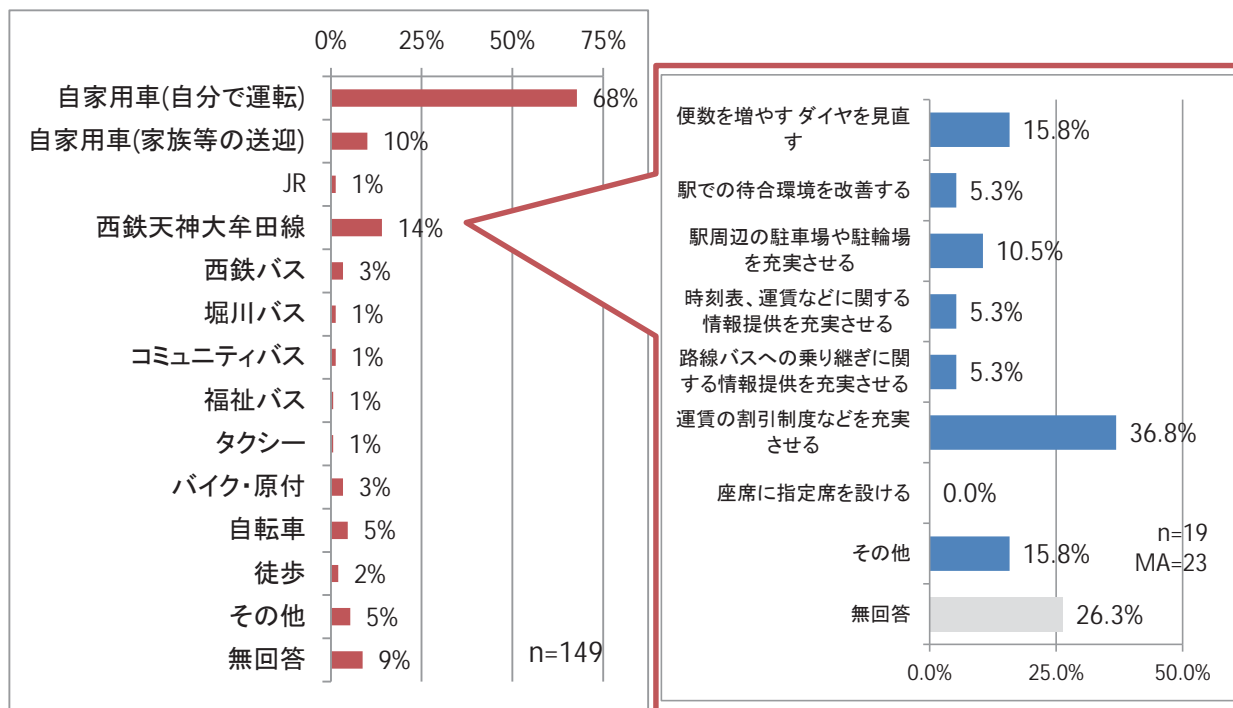


資料：市民アンケート

図 公共交通を利用して市内に買物・通院する高齢者の路線バス・コミバスに対する改善要望（左：買い物、右：通院）

(3) 鉄道で市外に外出する市民の円滑なネットワークの確保

- ・習い事や健康づくり、趣味、友人との会食などの外出（その他外出目的）では、市外に外出する約 1 割が西鉄天神大牟田線を利用しており、鉄道に対して「運賃の割引制度の充実」や「便数 ダイヤの見直し」などの改善要望を挙げています。



資料：市民アンケート

図 その他外出目的時の市民の移動手段と西鉄天神大牟田線利用者の鉄道に対する改善要望

(4) 柳川駅から沖端地区等観光資源への円滑なアクセスの確保

- ・観光客の主な目的は「川下り」や「食事」など主に沖端地区周辺の観光資源にあり、市の玄関口である西鉄柳川駅からのアクセスを確保していくことが必要です。
- ・また、九州外などの遠方からの来訪も多いことから、土地勘のない観光客にもわかりやすい情報提供や誘導サインなどの案内を充実させていく必要があります。

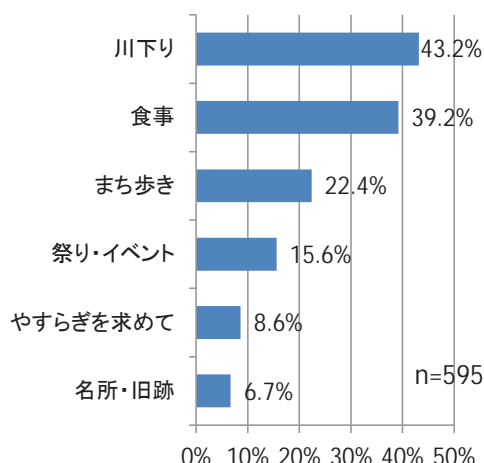


図 観光目的(上位6位まで)

表 観光客の改善要望（抜粋）

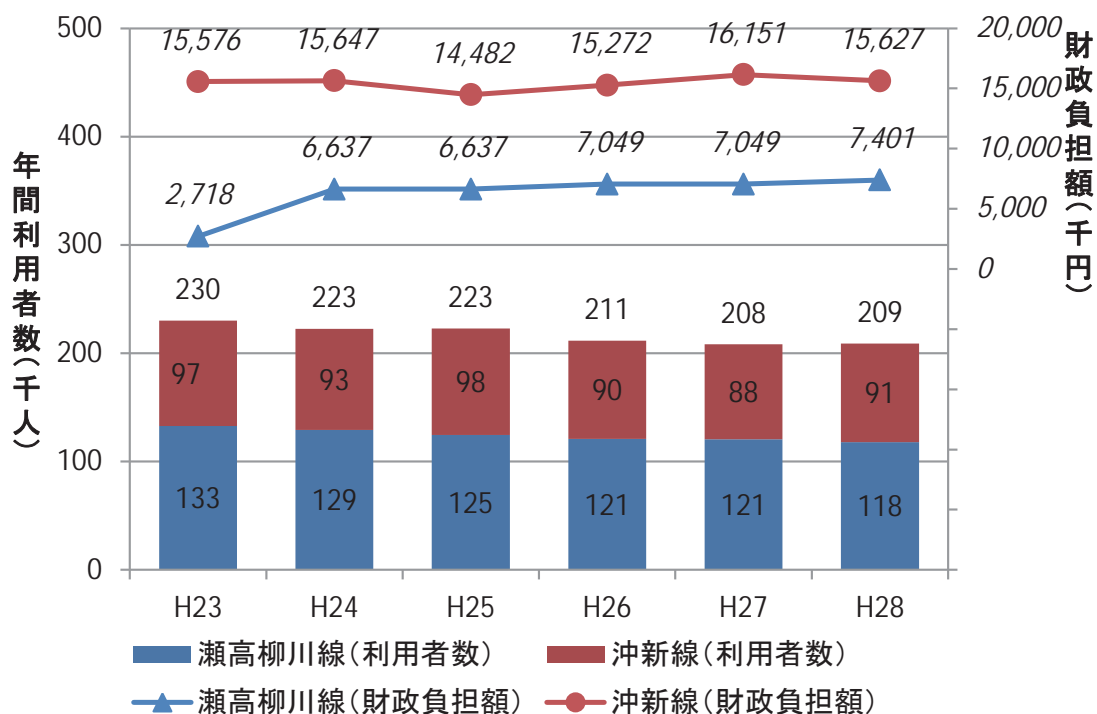
項目	内容
観光周遊に関する情報について	・見て歩きやすいパンフレット・散策マップの充実 ・駅でもう少し観光地をアピールしてほしい
交通に関する情報について	・案内板(看板)が分かりにくい ・標識がわかりにくい(案内標識が不十分)
外国人観光客に対する情報提供について	・外国人向けのサービスが不足 ・韓国語の表示・言語

資料：観光客動態調査

5-3 持続可能性の確保の観点からみた課題

(1) 路線バスの運行サービスの見直しによる持続可能性の向上

- ・利用が減少傾向にある瀬高柳川線と沖新線に対する市の財政負担額は増加傾向にあります。
- ・沖新線のバス停別の利用状況をみると、水天宮～早津江区間の利用は僅かとなっています。その一方で、沿線には市外から西鉄天神大牟田線で通学している学生が多数在籍する国際医療福祉大学が立地しています。
- ・増加する財政負担の抑制に向けて、新規需要を獲得するために運行ルートの見直しなどを検討し、沖新線の持続可能性を高めていく必要があります。



※瀬高柳川線：利用者数は堀川バスからの補助事業実績報告書添付資料による（各年度10月～9月）

※沖新線：利用者数は西鉄バス久留米からの月例報告による。（各年度10月～9月）

※瀬高柳川線に対する財政負担額：平成23年度は当該年10月～翌年3月まで計上。その他の年度は当該年10月から翌年9月まで計上。

資料：柳川市資料

図 瀬高柳川線と沖新線の利用状況と財政負担額の推移



※平成 28 年 5 月調査結果：平日 1 日

資料：西鉄バス久留米提供資料

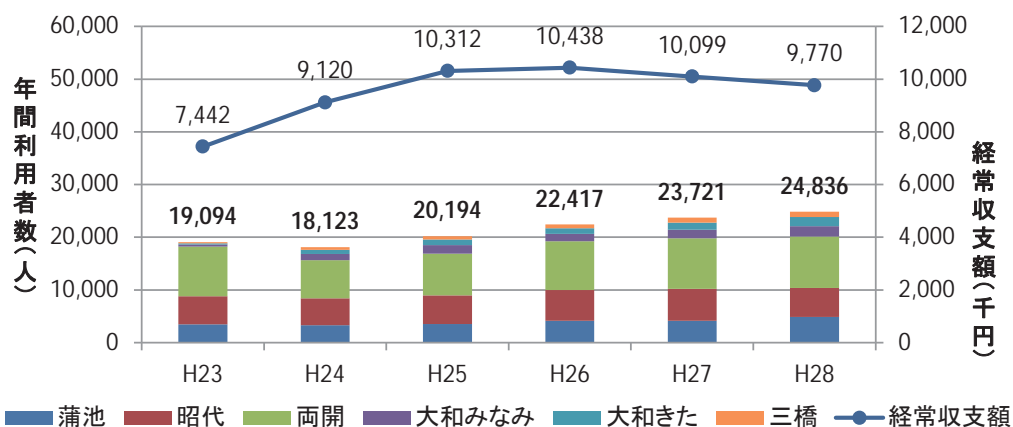
図 バス停別一便あたり乗降者数：沖新線



図 沖新線・市内循環線路線図

(2)コミュニティバスの運行効率化と財政面の強化

- ・コミュニティバスの利用者数は年々増加しており、経常収支は近年減少傾向にありますが、平成 28 年度においても約 980 万円の赤字が生じています。
- ・バス停別の利用状況をみると、1 日当たり 0.5 人未満※となるバス停が見られます。赤字額の軽減に向けては、そうした稀にしか利用されていないバス停への経由を見直すなど運行経費の抑制を検討していく必要があります。
- ・また、財政面の強化に向けて運賃の値上げを検討していく必要があり、運賃の許容額について約 5 割のコミュニティバス利用者が現行よりも高い額を回答しています。

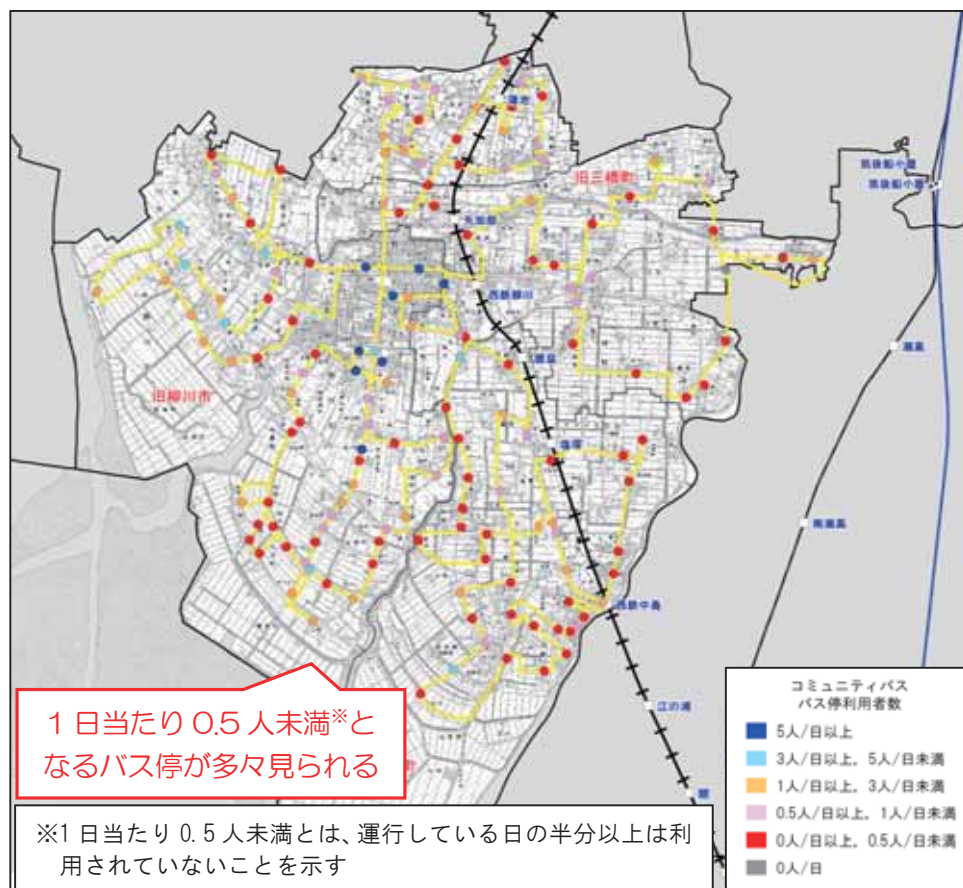


※大和・三橋は平成 23 年 11 月から運行開始

資料：柳川市資料

※集計期間：各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

図 コミュニティバスの利用者数と経常収支額の推移



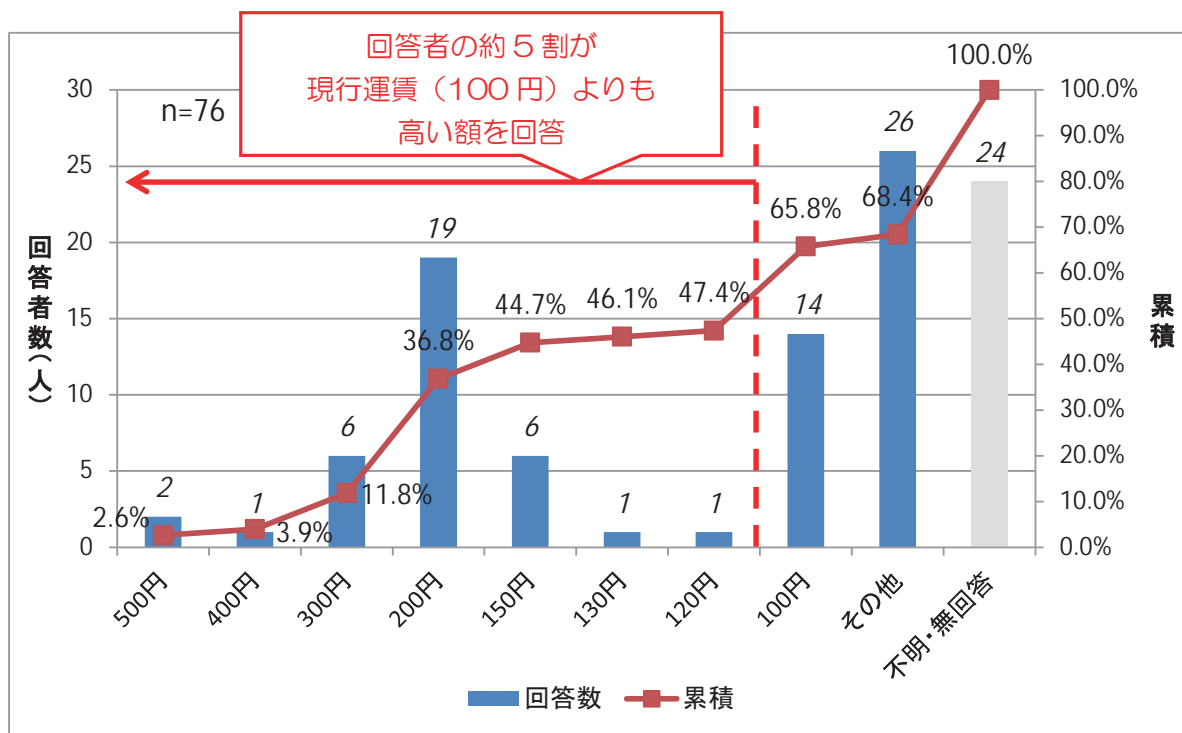
※集計期間：

平成 27 年 1 月～

平成 28 年 12 月

資料：柳川市資料

図 バス停毎の 1 日当たり利用者数

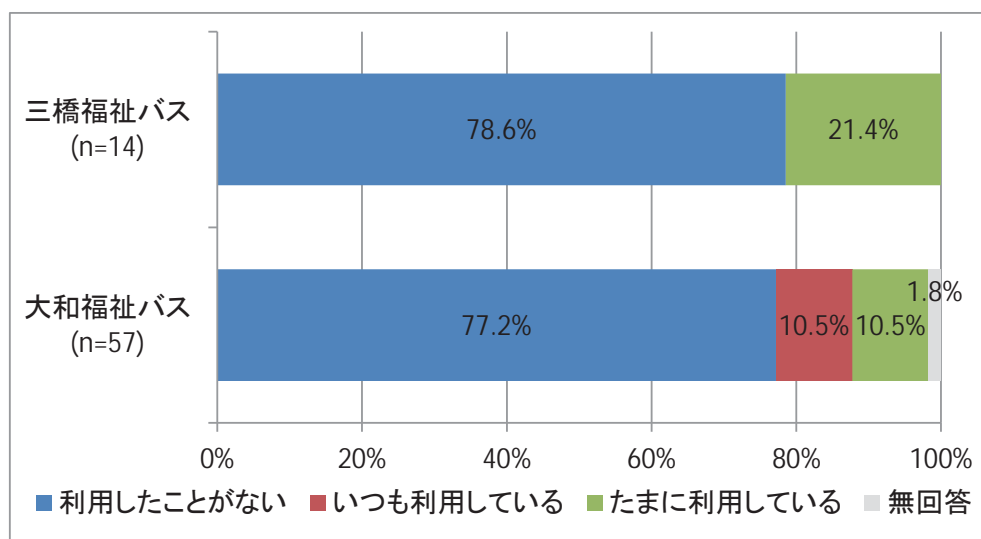


資料：コミュニティバス利用者アンケート調査

図 コミュニティバスに対する支払可能額

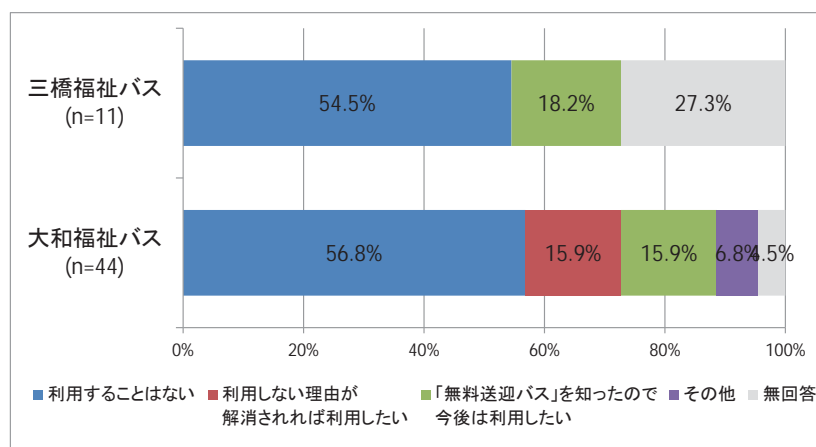
(3)利用が著しく低迷する福祉バスの運行サービスの見直し

- ・保健福祉センター利用者の約 8 割が「福祉バスを利用したことがない」と回答しています。
- ・さらに、今後の利用意向についても、5 割以上が「今後も利用することはない」と回答しており、ニーズは低くなっています。
- ・運行ルートがコミュニティバスとほぼ重複していることから、コミュニティバスと統合するなど運行効率化に向けた検討が必要です。



資料：保健福祉センター利用者アンケート調査

図 福祉バスの利用状況



資料：保健福祉センター利用者アンケート調査

図 福祉バスの今後の利用意向

(4)市民の公共交通に対する認知・関心の喚起と利用促進

- ・公共交通に対する満足度は1割程度と低水準となっています。
- ・また、約4割が「どちらでもない」を回答しており、公共交通のことを知らない、あるいは関心がないために評価できないといった状況がうかがえます。
- ・さらに、普段公共交通を利用しない市民の3～4割が路線バスやコミュニティバスを利用しない理由について「そもそもバスを利用しようと考えたことがない」を回答しているなどバスが移動手段の選択肢として認知されていない状況もうかがえます。
- ・今後も持続的に公共交通を運行していくためには、サービスを提供する行政や交通事業者の努力のみならず利用者である市民の関心を高めていくことが必要です。
- ・そのために、市民への情報提供の強化や利用の呼び掛けなどの利用促進に取り組んでいくことが必要です。

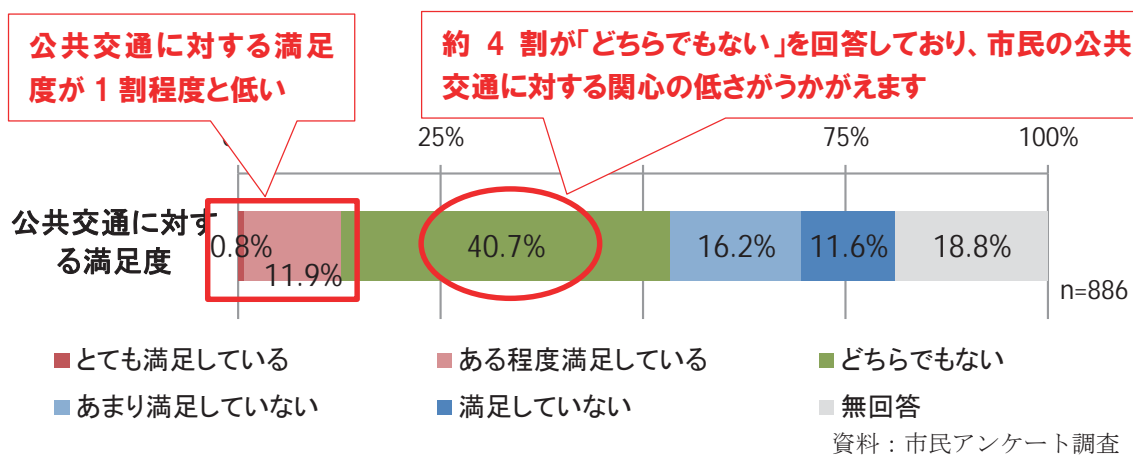


図 市内の公共交通に対する満足度

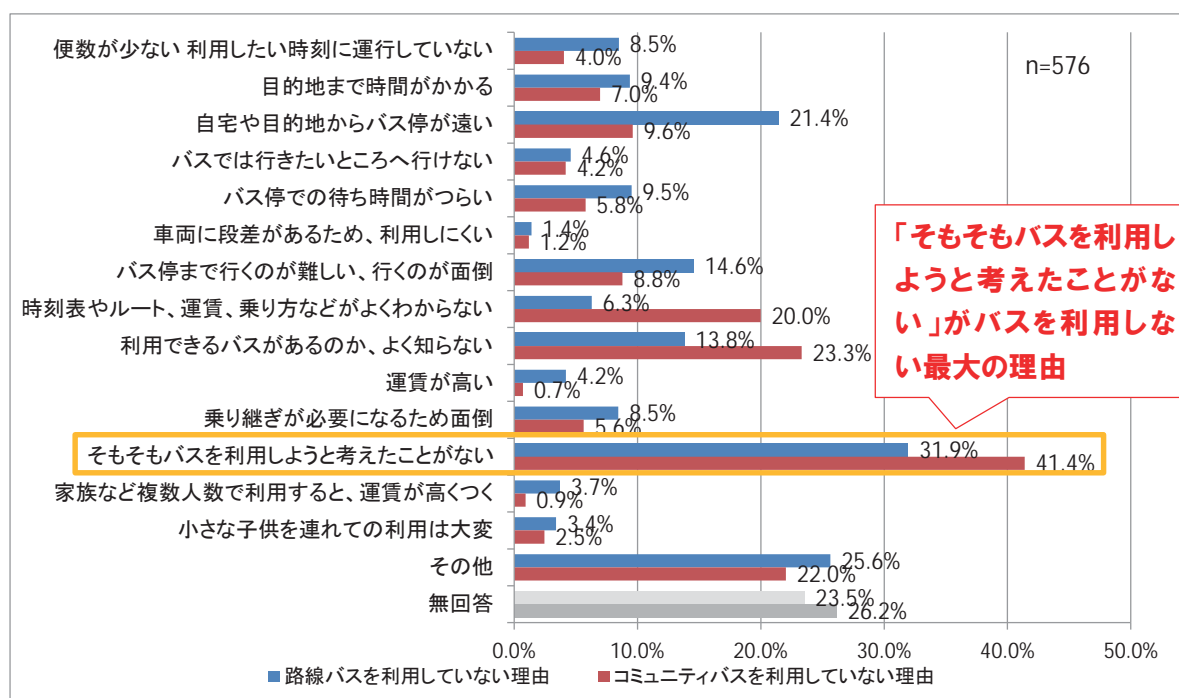


図 普段公共交通を利用しない人の路線バス・コミュニティバスを利用しない理由

5-4 柳川市における地域公共交通の問題点・課題の整理

前項までに整理してきた本市における公共交通の問題点・課題を以下に示します。

まちづくりの 観点からの課 題	コンパクトな都市づくりに向けた西鉄柳川駅周辺へのアクセスの確保
	生涯学習や健康づくりなどの推進に向けた活動拠点へのアクセスの確保
	定住・移住促進に向けた西鉄柳川駅を拠点とした市内外への円滑なアクセスの確保
	観光振興に向けた円滑な来街アクセスの確保や市内周遊環境の形成
市民等の二 ーズからの課題	市外に通勤・通学する市民の円滑な移動の確保
	高齢者の市内生活利便施設へのアクセスの確保
	鉄道で市外に外出する市民の円滑なネットワークの確保
	柳川駅から沖端地区等観光資源への円滑なアクセスの確保
持続可能性の 確保の観点か らの問題点・ 課題	路線バスの運行サービスの見直しによる持続可能性の向上
	コミュニティバスの運行効率化と財政面の強化
	利用が著しく低迷する福祉バスの運行サービスの見直し
	市民の公共交通に対する認知・関心の喚起と利用促進